施設名	植水保育園	電話	（048）―623―6689
住所	さいたま市西区佐知川３０６		

事例1	タイトル	「お芋掘りにいこう！スイートポテトづくり」（食育集会　職員寸劇＆クッキング）
目指す姿（大きな目標）		・食材がどのようにして収穫されるか、食材への興味関心を持ち、料理を作る音、香り等を感じて食べることへの意欲を育てる。
当日のねらい（小さな目標）		・色々なお芋の種類があることや、どのように畑になっているのかを知る。 ・調理実演を観覧することで、料理の楽しさを感じる。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・（1歳児）・（2歳児）（3歳児）・（4歳児）・（5歳児）・ 保護者 ・ その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 （保育士） 栄養士 （調理師）・ 調理員 ・ その他（　　）
	日時	令和7年 10 月　29 日（水）
	場所	ホール
	資料・教材	えいようの歌絵カード、畑・じゃがいも・里芋・サツマイモの作り物と、各種芋の実物 サツマイモ、牛乳、生クリーム、バター、まな板、ピーラー、ボール、包丁、マッシャー、鍋、コンロ、オーブン、給食室で使っている鍋や調理器具
	実施内容	① えいようの歌を歌う（絵カードを見ながら、クイズ形式で行う） ② 職員寸劇「お芋掘りにいこう！」（色々な葉っぱのお芋が畑に植わっており、みんなでうんとこしょ、どっこいしょの掛け声で掘り出す） ③ 調理師と保育士によるスイートポテト調理実演（実際に芋を切り、オーブンで焼く） ④ 色々なお芋に実際触れる。
結果・参加者の反応や様子		① 「赤の食べ物はどんな力があるでしょう？」という問いに「体を作る！」「緑の食べ物は？」「風邪を治す！」と意欲的に答える年長児の姿があった。 ② 「これは何のお芋の葉っぱかな？」「お芋は、どこについているの？」の保育士の問いに芋によって色々な葉っぱの形があることや根っこに芋がついていることを知り、興味深そうに見ていた。また、「うんとこしょ。どっこいしょ。」の掛け声で、芋ほりが盛り上がっていた。 ③ 調理師が参加し、芋を包丁で切り、力を込めて芋を潰し、ひとつひとつ材料を入れる様子は、とても興味を示し見ていた。焼けたスイートポテトの匂いを嗅いで「美味しそう！」と呟く子がいた。実演で、スイートポテトを色々な型にした。当日のおやつは、給食室でその型を再現して提供してくれたので、子どもたちからは「かわいい！」と大好評でよく食べていた。 ④ 実際に色々な芋に触れて、手触りや重さを感じて、嬉しそうに触れる子どもの姿があった。
評価・今後の課題		・調理師と調理実演することで、いつも給食室で作ってくれている様子を紹介できた。 ・えいようの歌は、その時だけでなく、もう少し歌って、親しんでいけるとよいと思う。 ・劇は、分かりやすい内容だったが、調理実演の場面では、乳児組では、少し飽きてしまった子もいた。今後、年齢に合わせた食育を考えていきたい。
備考		

施設名	さいたま市立指扇保育園	電話	048−623-5065
住所	さいたま市西区高木 567 - 3		

事例 2	タイトル	園内でのかぼちゃの栽培・収穫・ハロウィンかぼちゃ作り
目指す姿（大きな目標）		栽培の過程や収穫の喜びを皆で共有し、食べ物を大切にしようとする気持ちを育む
当日のねらい（小さな目標）		かぼちゃの収穫、収穫したかぼちゃを飾って楽しむ
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ 3歳児 ・ 4歳児 ・（5歳児）・ 保護者 ・ その他（ ）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・（保育士）・ 栄養士 ・ 調理師 ・（調理員）・ その他（ ）
	日時	令和7年5月～10月
	場所	園庭畑、5歳児室
	資料・教材	かぼちゃ、画用紙
	実施内容	・かぼちゃの苗植え、栽培、収穫を行う。 ・収穫したかぼちゃを子ども達の目の前で切り、断面を見る。 ・給食室で調理し、食べる。 ・収穫したかぼちゃを使って、ハロウィンの飾り付けをする。
結果・参加者の反応や様子		・5歳児クラスが何の野菜を栽培するか話し合った際、「かぼちゃを育てたい」という声が上がった。子ども達が草むしりをして、畑を耕し、苗を植えた。毎日水やりをして、大切に育て、生長を喜んだ。 ・自分達が育てたかぼちゃを給食室に持って行き、目の前で切ってもらい断面を観察した。そのかぼちゃを調理し皆で食べた。「すみれ組にもあげたいね」と、美味しさを共感したい気持ちを伝えている子もいた。他クラスにも分け、収穫の喜びを感じることができた。 ・「ハロウィンだからかぼちゃを飾りたいね」と、子ども達からの発信があったので、保育者が画用紙で作った目を貼ると、「帽子もつけよう」などの意見が出た。オリジナルのハロウィンかぼちゃが出来上がった。皆が見える場所に飾ったことで、5歳児クラスだけでなく園全体で収穫を喜ぶことが出来た。
評価・今後の課題		・育てた野菜を料理してくれた調理員に感謝の手紙を渡す子もいた。野菜の栽培を通じて、食への感謝の心が育まれた。 ・年長児が育てた野菜を、調理し食べたことで、年長組への憧れや感謝の気持ちが育った。次年度以降も、その気持ちを繋げられるように、野菜の栽培を継続出来るよう環境を整えていきたい。
備考		 《写真》かぼちゃを給食室で切っているのを観察する場面

施設名	さいたま市立馬宮保育園	電話	048-623-4014
住所	埼玉県さいたま市西区西遊馬 119		

事例3	タイトル	野菜からのお手紙
目指す姿（大きな目標）		食材への関心を高めるとともに、食べる意欲を育てる
当日のねらい（小さな目標）		給食を楽しみながら食べる
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・(2歳児)・(3歳児)・(4歳児)・(5歳児)・ 保護者 ・ その他（ ）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・(保育士)・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（ ）
	日時	令和7年4月～令和8年3月
	場所	保育室
	資料・教材	野菜からの手紙（自作）
	実施内容	給食に使用する野菜に親しみが持てるよう、「野菜からのお手紙」を作成し、該当する野菜が給食に使われる日に紹介している。季節の野菜を積極的に取り入れ、旬も感じられるようにする。内容は、野菜が自分の言葉で話しかける形式とし、特徴や効能を子どもに分かりやすく伝えるものとしている。例：「ぼくはにんじん！ぼくをたべるとおめめがピカピカになるんだ！いっぱい食べてね！」
結果・参加者の反応や様子		回数を重ねるにつれて子どもたちはお手紙を楽しみにするようになり、「今日はお手紙くるかな？」と期待を寄せる姿が見られるようになった。また、同じ野菜が再び給食に出た際には、「この前お手紙きたよね」「おめめがピカピカになるんだよね」と話すなど、野菜の特徴を覚えて食事に関心を示す姿が増えた。さらに、苦手な野菜にも挑戦する姿が見られ、食べる意欲の向上につながってきている。
評価・今後の課題		今後も楽しみながら野菜や体への理解を深められるように、継続して取り組んでいく。また、手紙の内容を、季節の野菜や行事食などにも広げていくことで、食材を通して季節の移り変わりを知ったり、日本の食文化に親しんだりするきっかけにしていく。
備考		

R7 食育取組事例シート

施設名	さいたま市立三橋西保育園	電話	048-622-1350
住所	埼玉県さいたま市西区三橋６-381-1		

事例４	タイトル	「何の野菜か当ててみよう」
目指す姿（大きな目標）		食材に興味や親しみを持ち、様々な食材を食べてみようとする。
当日のねらい（小さな目標）		絵本を見たり、ハテナボックスで実際に野菜にふれたりして、楽しく野菜に興味関心をもつ。
方法	対象者（〇で囲む）	０歳児 ・ １歳児 ・ ２歳児 ・ (3歳児) ・ (4歳児) ・ (5歳児) ・ 保護者 ・ その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ (保育士) ・ 栄養士 ・ (調理師) ・ 調理員 ・ その他（　　）
	日時	令和7年9月10日（水）
	場所	三橋西保育園　保育室
	資料・教材	絵本「おかしになりたいピーマン」 野菜(冬瓜・トウモロコシ・ゴーヤ）ハテナボックス 旬の野菜のイラスト
	実施内容	・「おかしになりたいピーマン」の絵本の読み聞かせ ・春夏秋冬の旬の野菜の紹介 ・ハテナボックスを使って野菜当てクイズ
結果・参加者の反応や様子		・ハテナボックスに何が入っているのかワクワクしながら手を入れて触る姿が見られた。 ・すぐに何の野菜かわかり「トウモロコシ～！」と元気よく答えている児もいた。 ・ゴーヤを触り、「アボカド？」と答える児もいた。 ・実際に野菜に触れることで楽しんで参加していた。
評価・今後の課題		調理前の食材そのものの形を知ることで、食べ物への興味がさらに深まったのではないか。 食材に興味を持ち、食べることの楽しさや大切さを今後も、集会などを通して伝えて行きたい。
備考		

施設名	さいたま市立日進保育園	電話	048-663-2791
住所	さいたま市北区日進町 2-632		

事例 5	タイトル	育てた稲が食べられるお米になるまでを知ろう
目指す姿（大きな目標）		食べることに感謝する気持ちを持つ。
当日のねらい（小さな目標）		・白米がどのような過程で食卓に出ているかを知り、白米一粒の大切さを知ったり、ありがたさを知ったりする。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ 3歳児 ・ 4歳児 ・ (5歳児) ・ 保護者 ・ その他（ ）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ (保育士) ・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（ ）
	日時	令和7年 11 月 28 日(金)
	場所	5歳児室
	資料・教材	・春から育てていた稲 ・玄米 ・白米 ・糠 ・ぬか床 ・すり鉢 ・野球ボール
	実施内容	5歳児クラスで春から育てていた稲の収穫と共に、籾摺りを行った。籾摺りは、すり鉢の中に籾を入れ、野球ボールを転がして行った。 籾摺りを行った後、保育士が自宅から持ってきた玄米、玄米を精米した時に出てきた糠、白米を見せて精米の過程を話す。 精米の過程で出てきた糠に実際に触ってみたり、糠で作られたぬか床を見たり、においをかいだりする。
結果・参加者の反応や様子		・春から育ててきた稲だが、収穫した物の量の少なさを見て普段食べる白米のありがたさに気付く姿があった。 ・籾摺りの体験は興味を持ち、楽しんで行う姿が見られた。取れたもみ殻を見て「めくれた～」と喜ぶ姿もあった。また、玄米を見て「まだ汚いね」と話す児もいた。 ・籾、玄米、白米を実際に見せて保育士が精米の話をすると、籾の状態を『洋服を着ている』、玄米の状態を『下着姿』、白米を『はだかんぼ』といったように子どもたちなりに分かりやすく表現する姿が見られた。 ・ぬか床のにおいを初めて嗅いだ時は、強いにおいに驚いたり「くさい」と表現したりする姿もあった。 ・毎日の給食でご飯粒が食器にくっついている時に、今回の体験で一粒の大切さを知った児は一粒も残さないで食べようと努力する姿が見られた。
評価・今後の課題		・今回は、子どもたちが実際に籾摺りなどの体験をして楽しみながら学べてよかった。 ・普段毎日のように食べているご飯が食べられるようになるまでの課程や、白米一粒の大切さを知るきっかけになったのではないかと思う。 ・子どもたちなりの表現で考えたことを言葉にして積極的に参加する姿が印象的だった。今後も食への興味を高められるよう保育していく。
備考		

籾摺りを体験する子どもの姿

籾摺り(もみすり)　～籾(もみ)から玄米(げんまい)へ～
すり鉢の中に籾を入れ、野球ボールを転がしてもみ殻を取ります。

ぬか床

保育士がぬか床を見せると、においを嗅いで「何このにおい～」と不思議そうに見たり、強いにおいに鼻を手で覆ったりする子もいました。

精米した時に出てくる糠に触ってみる子どもの姿

精米(せいまい)　～玄米から白米へ～
精米機で玄米の表面の糠(ぬか)などを削り取り、精米します。
今回は玄米と、事前に精米した白米、糠を保育士が持ってきてみんなで見比べました。

施設名	さいたま市立東大成保育園	電話	048-664-6582
住所	さいたま市北区東大成町２－１０３		

事例 6	タイトル	・秋の香りのスパゲティはどんな風に作られているの？～給食室体験を通して～
目指す姿（大きな目標）		・調理工程を知り、調理師の方々と触れ合うことで、食に興味を持つ。
当日のねらい（小さな目標）		**・給食が出来上がるまでの工程を知り、秋の香りのスパゲティが出来上がるまでの多くの工程を知り、食を大切にする気持ちを育む。** **・保育士が給食室での調理体験を通して子どもたちによりリアルに調理についてを伝えられる。**
方法	対象者（○で囲む）	０歳児 ・ １歳児 ・ (2歳児) ・ (3歳児) ・ (4歳児) ・ (5歳児) ・ 保護者 ・ その他（　　）
	実施者（○で囲む）	幼稚園教諭 ・ (保育士) ・ (栄養士) ・ (調理師) ・ (調理員) ・ その他（　　）
	日時	令和7年 10 月 10 日（給食室体験日）、11 月 25 日（食育集会日）
	場所	給食室、保育園ホール
	資料・教材	・野菜、果物の断面図クイズ（ペープサート） ・調理室の調理過程の写真 ・調理に使用している鍋・しゃもじ・ザル・へら
	実施内容	・事前に職員による調理室での調理体験をする ・野菜果物、切り口当てクイズペープサートを保育者が行う ・調理師、調理員の紹介をする ・秋の香りのスパゲティの調理の写真を使用しての調理工程を紹介する ・調理師への質問を行う ・調理器具の紹介と実際に触ってみる体験をする
結果・参加者の反応や様子		食育集会を開催する前に、実際に給食室で調理体験を保育者が行った。そのため、食育集会での調理工程の説明の中で、調理の工夫や手間のかかる部分や細心の注意を払って調理していることを、体験を交えて詳細に伝えることができた。 調理師・調理員の方の紹介をしたり、調理師への質問コーナーでは、普段関わりの少ない調理師の方々の話を静かに集中して聞こうとする姿が印象的だった。 給食室の調理工程を写真に納め拡大し、説明していくことで沢山の調理工程を経て自分たちの目の前に完成した給食が出てくるのだと幼児クラスは気が付いている様子があった。 また最後に調理器具に実際に触れ、調理をしている写真の姿を真似しながら楽しそうに動かしている子どもたちの様子があった。
評価・今後の課題		調理体験をしなくては分からないことが多く、貴重な体験となったので、来年度も体験する機会があると良いと思う。 子どもたちが集中して調理師の方の話を傾聴する姿から、食について興味をより持ち始めているのが伝わってきた。今後も調理師等の方々との触れ合える機会を設け、交流が増えて、更に食について興味を深めていけると良いと思う。 また楽しそうに調理器具に触れている様子から、調理に近い機会や体験が持てたらと考える。
備考		

R7.11.25　食育集会

子どもたちにおいしい給食を作ってくださる給食室の先生たちの紹介と、実際にどうやって給食を作っているのか写真を見ながら教えてもらいました！

実際に使っている鍋を近くで見せてもらいました。
小さい子はすっぽり入ってしまうくらい大きなお鍋に興味津々な子どもたちです！

給食室の先生たちの名前を教えてもらいました！
誕生会メニューの可愛い飾りつけは、前日に話し合って決めているそうです。

「給食の先生の好きな食べ物は何ですか？」
「お刺身が好きです」
好きなものを聞いてみることで給食の先生方も身近に感じられるといいですね。

保育園の秋の香りのスパゲティをつくる様子

大きな鍋で炒めていきます！
麺は事前に半分に折ってから茹でています。

ボウルいっぱいの
にんじん、たまねぎ、きのこ！
食べやすいように細かく切ってもらっています。

施設名	さいたま市立宮原保育園	電話	048-663-4120
住所	さいたま市北区宮原町２丁目８３－２		

事例 7	タイトル	三色食品群について
目指す姿（大きな目標）		自分たちが食べている食材が三色の内のどの部類なのか体の栄養に繋がるのかを知る
当日のねらい（小さな目標）		三色食品群を知る。食材に興味を持つ。栄養を意識する。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ (3歳児 ・ 4歳児 ・ 5歳児) ・ 保護者 ・ その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ (保育士) ・ (栄養士) ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（　　）
	日時	R7年9月11日（木） 12月11日(水)　12月23日(火)
	場所	ホール　各クラス
	資料・教材	第一回➡三色食品群シート、 第二回➡パネルシアター(食材・おなべ) 第三回➡三色レンジャー
	実施内容	第一回➡三色食品群の歌を歌った後に、予め用意していた食材グッズを年長に渡し、 食材がどの色の食品群に入るのかをゲーム形式にして振り分ける。 第二回➡カレーや麻婆豆腐の中に入っている食材が何色の食品群に入るか振り分ける 第三回➡今までの取り組みを振り返り、その後三色レンジャーが登場。 その日の給食の食材をレンジャーと一緒に食品群ごとに振り分けする。
結果・参加者の反応や様子		・第一回、初めに歌に合わせて食材を確認したことで、食材の振り分けも確認しながら楽しんで入れていた。年長のみの振り分けであったが、3・4歳の子も持っている野菜をみて赤や緑・黄色と答えて一緒に楽しめていた。各クラスに用意した三色食品群のシートを掲示してもらうと、子どもたちも興味を持ちその日の食材がどの色に入るのか気にする様子も見られた。 ・第二回、一回目の食材の振り分けを覚えていたり、クラスに貼ってある食品群のシートを見たりしてクラスで取り組んでいたこともあり、自信を持って、また楽しんで食材を振り分けていた。2歳児も興味を持った子も加わり一緒に話を聞く。給食の際はどの食材がどの食品群なのか気にしながら食べる子もいた。 ・第三回、前回、栄養士さんが来てくれたことを覚えている子が多くお鍋での振り分けの話をしていた。レンジャーが登場することでより食品の振り分けを楽しんで行い、三色食品群の歌も年長が上手に歌ってくれていた。
評価・今後の課題		・三回に分けて、食品群の話をしたことで子どもたちのなかで少しずつ食材や栄養について興味を持つようになってきた。園内だけで行うのではなく栄養士にも話をしてもらうことで、より楽しんで学べたように感じる。 引き続き取り組んでいきたい。プラスとして食育ボードを作成し、その日の食材振り分けをしていくなどして、より意識したり楽しんでできるよにしていきたい。
備考		

施設名	大砂土保育園	電話	048-663-7233
住所	さいたま市北区土呂町１－５１－８		

事例８	タイトル	サツマイモを掘って食べて触れて見て楽しみつくす！
目指す姿（大きな目標）		季節の食材に興味を持ち、食べ物に関心を持てる子どもを育む。
当日のねらい（小さな目標）		芋掘りを経験し、芋を食べるだけでなく様々な形でふれあうことで食への興味を持てるようにする。
方法	対象者（〇で囲む）	~~0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ 3歳児 ・ 4歳児 ・ 5歳児 ・ 保護者~~ ・ その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ (保育士) ・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（　　）
	日時	令和7年10月～12月
	場所	玄関ホール、園庭、5 歳児室
	資料・教材	献立レシピ、サツマイモ
	実施内容	・レシピの紹介 4、5歳の芋ほり前後に2種類ずつ給食やおやつで人気のサツマイモを使ったメニューを保護者が持ち帰れるように用意した。 ・芋版遊び 掘ってきたサツマイモを使って0歳から5歳までみんなで戸外で芋版遊びをした。出来上がった作品を木の形にして子どもたちが日々通る階段に貼り並木道を作った。 ・芋づるリース製作 5歳児が芋づるを使ってリースを作り、どんぐりや松ぼっくりなど秋の自然物を使って装飾した。
結果・参加者の反応や様子		・レシピ紹介 子どもにも見える位置にレシピを掲示し、掲示した日から手に取り持ち帰る姿が見られた。芋ほり前後でメニューを替えたことで種類も多く届けることが出来た。 ・芋版遊び 戸外で行ったことで異年齢の交流となり、乳児も興味を持って遊びに行く姿が見られた。いもばん遊びでできた作品を写真の掲示だけでなく、装飾として階段に貼ったことで登降園の際に子どもが触れながら親子でのやり取りも聞かれた。 ・芋づるリース製作 芋づるでリースが作れることに驚きながらも製作を楽しんでいた。保護者からも「素敵ですね」「早く自宅に飾りたい」と好評であった。
評価・今後の課題		・レシピを持ち帰る姿は見られたが感想等はあまり聞かれなかったので反応が分からなかった。レシピを持ち帰ってからの反応が見られる工夫をしたい。 ・芋版は切って丸い形だけにしたが、子どもの想像力で様々な形が出来上がっていた。
備考		

サツマイモレシピ紹介

芋版遊び、壁面製作

５歳児芋づるリース製作

施設名	日進西保育園	電話	048−663−0063
住所	さいたま市北区日進町１−８００−１		

事例９	タイトル	食育集会「出汁を試飲してみよう」
目指す姿（大きな目標）		実際に触れ、試飲することで食材への興味関心を持つ
当日のねらい（小さな目標）		“出汁”の食材に興味関心を持ち、触れたり味わったりする
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ 3歳児 ・ 4歳児 ・ 5歳児 ・ 保護者 ・ その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ 保育士 ・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（　　）
	日時	令和7年7月17日
	場所	ホール
	資料・教材	煮干し、鰹節（削る前の物）、鰹節、出汁（煮干し）、味噌汁（出汁なし）、紙コップ、鰹削り器 給食室で出汁を取っている様子の写真、味噌汁のパネル
	実施内容	・出汁や出汁の種類の説明 ・実際に煮干しや鰹節に触れる、においをかぐ ・煮干しの出汁の試飲 ・味噌汁（出汁なし）の試飲 ・煮干し出汁を味噌汁（出汁なし）に混ぜ出汁入り味噌汁を作り試飲する
結果・参加者の反応や様子		前回の食育集会で出汁の事を説明していたこともあり、出汁についてよく理解していた。鰹をかつお節削り器で削り、鰹節になる様子を見せると驚いた様子だった。実際に乾物を触ったりにおいをかいだりして興味を持ちながら参加していた。自分たちで出汁と味噌を合わせて味噌汁を作ることに嬉しそうに参加していた。味噌汁（出汁なし）を飲むと「何か足りないなぁ」と言っている子もいれば、「美味しい」という子もいて感想はそれぞれだったが、「味噌だけより出汁を入れた方が飲みやすい」という意見が多く聞かれた。初めて食育集会に参加した4歳児は味噌汁に出汁が入っていることを知ることができ、驚いていた。 食育集会後の給食では、「今日は煮干し出汁だ」と味わって味噌汁を飲む姿が見られた。その後も給食の食材紹介の中に煮干しがあると「今日の味噌汁に入っているんだよね」と食べながら聞く姿がみられた。
評価・今後の課題		子どもたち自身が自分で煮干しの出汁に味噌汁（出汁なし）を混ぜて味噌汁を試飲したことにより、楽しんで参加する姿が見られた。初めて参加したクラスは味噌汁には具や味噌だけではなく、出汁が入っていることを知ることができた。 集会後に給食の味噌汁を飲み「今日の出汁は煮干しだね」などと子ども達で話したり、職員に聞いたりしながら身近に感じ興味を持っていたのでよかった。今後も給食前に食材紹介などを続けて食材に興味を持ってもらいたい。
備考		4、5歳の集会後、乳児室では給食の時間に味噌汁に出汁が入っていることを、給食室の写真で説明した。集会には参加しなかったが、にぼしや鰹節を触わり、においをかいで食材に触れることができた。

食育集会で使った
・鰹
・煮干し
・かつお節
・味噌汁のパネル

煮干し出汁を試飲中。「魚の匂いがするね」と話しながら飲んでいました。

煮干し出汁と味噌汁を混ぜ合わせて自分で味噌汁を作ると嬉しそうに飲んでいました。

給食室で出汁を取っている写真で、出汁を取るまでの様子を説明しました。「これ保育園の給食室？」と興味津々で聞いていました。

施設名	さいたま市立奈良保育園	電話	651-7172
住所	さいたま市北区奈良町 125-6		

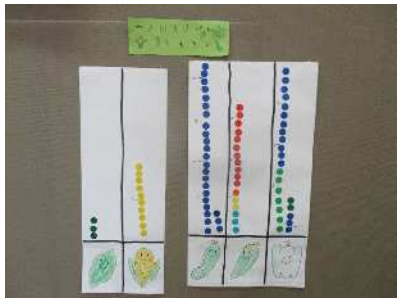
事例１０	タイトル	浮くか沈むかどっちかな？
目指す姿（大きな目標）		野菜に興味関心を持つ。
当日のねらい（小さな目標）		この実験を通して自分から野菜を食べてみようとする。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ 3歳児 ・ 4歳児 ・ 5歳児 ・ 保護者 ・ その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ 保育士 ・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（　　）
	日時	令和7年 10 月 16 日（木）
	場所	ホール
	資料・教材	テーブル・野菜・透明のケース・水
	実施内容	幼児クラス対象に食育集会を行った。人参・ピーマン・さつまいも・きゅうり・なす・ブロッコリー・じゃがいも・玉葱・キャベツの野菜を順番に透明なクリアケースの水の中に入れて、浮くか？沈むか？どうなるのかを予想し、実験した。
結果・参加者の反応や様子		9 種類の野菜を見て、初めは重い野菜は沈むと答えていた子どもたち。順番に野菜を透明なクリアケースの水の中に入れて見せた。「ピーマンは軽いから浮く」と予想し、予想通りピーマンが浮くと大喜びだった。次にキャベツを見せると「キャベツは重たいから沈む」と予想。入れてみると重たいキャベツがプカプカと浮かぶのを見てびっくりしていた。「なんで？」「重たいのに？」と不思議そうな表情をしていた。実験を終えてから、浮く野菜と沈む野菜は何が違うのか？をイラストを使って考えた。すると、子どもたちの方から「土の上で育った野菜は浮いて、土の中で育った野菜は沈むんだよ」との意見が出た。
評価・今後の課題		毎月幼児クラスでは旬な野菜などをハテナボックスを使用して紹介してみたり、実際に触ってみたり、食べ物の働きについて知る機会を設けている。その中で、この実験を行ったことでますます野菜に機会に興味・関心を持ち、苦手な野菜も自分から食べてみようとなっている。 引き続き、給食室と連携を取りながら食育活動を行っていきたい。
備考		

施設名	さいたま市立泰平保育園	電話	048−667−1847
住所	さいたま市北区今羽 596		

事例 11	タイトル	みんなで育てる夏野菜　～見る・触る・気づく～
目指す姿（大きな目標）		夏野菜の栽培を通して野菜や食への興味・関心を広げる
当日のねらい（小さな目標）		・生長の過程を見たり実際に触れたりすることで、夏野菜への興味・関心をもつ
方法	対象者（〇で囲む）	~~0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ 3歳児 ・ 4歳児 ・ 5歳児 ・ 保護者~~ その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・（保育士）・ 栄養士 ・ 調理師 ・（調理員）・ その他（　　）
	日時	令和7年
	場所	花壇、各保育室
	資料・教材	5 歳児が栽培した夏野菜（きゅうり、オクラ、枝豆、イエローポップ、ピーマン）
	実施内容	・栽培や収穫、食事の様子を“野菜だより”として掲示し、保育園での食育活動を保護者が見ることができるようにする。 ・収穫した野菜を集計できるよう表を作り、生長や数に興味を向けられるようにする。 ・給食室の職員に収穫した野菜を調理し、提供してもらう。
結果・参加者の反応や様子		・苗を植えて栽培する間、生長を楽しみにする姿があった。実がなってくると 5 歳児だけではなく、登園中の保護者と子どもが一緒に観察していたり、自由遊び中に「いつ食べられるかな」「ここにも実がある」と友だちや保育者と話したりする姿が見られた。 ・収穫した野菜を給食で提供してもらうと、乳児も興味を持っており「ぞう組の野菜？」と花壇を指さし嬉しそうに食べる姿があった。 ・4 歳児とも一緒に収穫を行うと、「とげとげしてる」「おいしそう」と笑顔で観察し、触ったりする姿があった。 ・5 歳児では収穫した野菜を家庭に持ち帰った。味の感想やどう調理したかアンケートも一緒に配布すると、子どもと一緒に調理したり食べたりした様子が伺えた。 ・生長の様子を見るうちに、実のなる場所や生長の過程に疑問をもち、図鑑で調べるなど「もっと知りたい」という興味・関心へと繋がった。
評価・今後の課題		・実際に見たり触れたりする中で野菜の生長の様子をじっくりと見る機会へと繋がった。種類によって葉の硬さや大きさが違うことに気付く姿があった。 ・疑問をもったことをきっかけに、「もっと知りたい」「調べてみよう」と興味をもったり、調べて考えたりすることへと繋がった。 ・栽培の様子を掲示したものをファイルにまとめたことで、保護者が手に取りやすく、子どもと一緒に見る姿があった。栽培の様子を見返すこともでき、保育園での食育活動を知る機会へと繋がっていた。
備考		

野菜の収穫をしました！

きゅうりの大きさ比べ。
形が違うことにも気づきました。



収穫の表を作りました！

尖っている所の名前は何だろう？と疑問を持って調べていました。

イエローポップを収穫して、乾かしています。

イエローポップの実を取っています。

施設名	さいたま市立　大宮保育園	電話	048-641-1497
住所	埼玉県さいたま市大宮区吉敷町１丁目 132-3		

事例１２	タイトル	食育集会 「食育レンジャーの元気の出るお弁当づくり」
目指す姿（大きな目標）		食べ物と体の関係について知り、食への興味・関心を深めていく。
当日のねらい（小さな目標）		共に考え、楽しみながら栄養について知り、食への興味・関心を深めていく。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・(2歳児) (3歳児) (4歳児)・(5歳児) 保護者 ・ その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・(保育士)・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（　　）
	日時	令和7年 11 月7日　 10:00～10:20
	場所	ホール
	資料・教材	3色ボードと食材
	実施内容	・ホールに集合し、保育者（栄養戦隊　食レンジャー）が秋の遠足の時期でもあったので3色ボードを使い、お弁当作りをする。 ・赤、黄、緑の食材に分け、栄養と体の関係について解説をし、それを受けて子ども達と一緒に元気の出るお弁当を作成する。 ・食育集会の活動の様子を掲示し、保護者に発信する。
結果・参加者の反応や様子		・昨年度から続いている「栄養戦隊　食レンジャー」が登場したことで、子どもたちも集中して話を聞いている様子があった。前回の集会もよく覚えていたようで「今日は何やるの？」と興味を持っているようだった。 ・元気の出るお弁当、出ないお弁当の例を見せると子ども達からも自然と「野菜も食べないと」「それじゃ元気でないよ」と発言する姿があった。 ・幼児クラスは秋の遠足後だったこともあり、自分たちのお弁当を思い出しながら「僕のお弁当は緑の〇〇が入ってたよ！」と3色のワードを交えながら話す子もいた。 ・2歳児は今回初めて食育集会に参加したが、集中して話を聞けていた子も多く、「今日はお野菜食べるよ」と野菜が苦手な児が張り切って野菜を口にする姿もあり、実施した成果が見られた。
評価・今後の課題		・子どもたちにとって、最近食べた身近なお弁当に焦点を当てたことにより、子ども達からの反応が良かった。 ・食レンジャーも子ども達の中で浸透してきて、楽しんで参加している。 ・わかりやすい内容だったこともあり、乳児も楽しめたようだった。 ・昨年度のような調理の集会が行えず残念。実物に触れて感じることが出来るような集会を今後企画していきたい。
備考		

施設名	三橋保育園	電話	048-643-3145
住所	埼玉県さいたま市大宮区三橋２-929		

事例１３	タイトル	**食事の時のマナーを知ろう！**
目指す姿（大きな目標）		食べる時のマナーについて興味を持ち、意識して食事する。
当日のねらい（小さな目標）		食べる時の姿勢や挨拶について知る。 苦手なものも食べてみようとする。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ (3歳児) ・ (4歳児) ・ (5歳児) ・ 保護者 ・ その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ (保育士) ・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（　　）
	日時	令和7年　6 月 20 日
	場所	ホール
	資料・教材	保育士による劇 オリジナルのイラスト
	実施内容	劇の中で、手を洗う、食べる時の姿勢、食器の持ち方、「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶といった、食事のマナーについて知らせた。また、劇の中でオリジナルのイラストを用いながら、食材がどこから運ばれてくるのかについてや、食事を作っている人がいることなども知らせた。
結果・参加者の反応や様子		集会中は、劇でマナーについて悪い例が出ると「いただきますしなきゃだよ」などと言って反応が返ってきていた。 以前は食事前の手洗いが雑であったり、食事中に出歩いてしまったりする子が多く、食に関するマナーや興味がない様子の子が多かった。集会当日の給食やおやつの時間には、劇の内容を思い出して、手洗いをしっかりしたり、元気に「いただきます」の挨拶をしたりする姿を見せていた。また、友だち同士でも「足組まないよ」などと食べる時の姿勢などについても話す様子が見られ、食事中のマナーを意識する姿が増えたように思う。
評価・今後の課題		身近な保育士が演じることで子どもたちも楽しみながら食事のマナーについて知ることができたように思う。また、食事ができるまでたくさんの人が関わっていることをイラストを使って示したことで、子どもたちによく伝わったと感じる。 集会があった後は、姿勢や挨拶を意識してマナーを守ろうとする姿がよく見られたが、数か月たつと意識が薄れてきたような姿も見られているので、定期的に集会の内容を思い出して意識できるようにしていきたい。
備考		 (食育集会の様子)

施設名	天沼保育園	電話	048-642-4240
住所	さいたま市大宮区天沼町 2-438-1		

事例 １４	タイトル	はじめてのおつかい、どっちがどっち?
目指す姿（大きな目標）		食材の特徴を知り、似た者同士の野菜の違いに気が付く。
当日のねらい（小さな目標）		実際に本物の野菜を見たり、触ったりする。一緒に特徴を見つける。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ (1歳児) ・ (2歳児) ・ (3歳児) ・ (4歳児) ・ (5歳児) ・ 保護者 ・ その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ (保育士) ・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（　　）
	日時	令和7年 9 月 3 日 10 時～10 時 45 分
	場所	ホール
	資料・教材	キャベツ、レタス、ブロッコリー、カリフラワー、ほうれん草、こまつな
	実施内容	・職員劇を披露した後、似た者同士の野菜を並べ、それぞれの特徴を子どもたちと探っていく。 ・野菜を水に浮かべ、みんなで浮かぶか浮かばないか予想してゲームをする。 ・野菜に触れる。野菜の重さや葉の形の違いなど自分の目で見て確かめてもらう。
結果・参加者の反応や様子		・野菜の特徴を見つけるのはなかなか難しそうだったが、野菜に触れたり劇を見たりする中で子ども自身の目で特徴を確認することができた。 ・水に浮かぶ・浮かばないゲームは水の量が少なくて上手く浮いているのか沈んでいるのかが確認しづらかったが、子どもたちも一緒に予想し、実際の野菜の動きを見て盛り上がる様子が見られた。 ・キャベツやレタスなど丸ごと触れることができ、子どもたちも重さや大きさに驚く様子が見られた。ホウレンソウやこまつなの葉を実際に見ることで「本当だ、形が違う」との声があった。
評価・今後の課題		参加型の集会にしたことで子どもたちも一緒に考えたり、楽しんだりすることができた。また、実際の食材に触れ、自分の目や感覚で確かめることができ、食材への興味が広がったと思われる。 今後の課題として、給食に使われている食材で親子でも楽しめるような内容の掲示やどの年齢の子も楽しめる参加型の集会を開き、自分たちが食べている食材により興味を高められるようにしていきたい。
備考		

施設名	さいたま市立上小保育園	電話	048-643-4436
住所	さいたま市大宮区上小町 845-4		

事例 １５	タイトル	「やさいのおなか」クイズ
目指す姿（大きな目標）		野菜の断面図のクイズを通して食材への興味関心を広げる
当日のねらい（小さな目標）		断面図クイズを楽しみ、中身の色が異なることや断面の形が変化することに気付く
方法	対象者（〇で囲む）	(0歳児)・(1歳児)・(2歳児)・(3歳児)・(4歳児)・(5歳児)・保護者 ・ その他（ ）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・(保育士)・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（ ）
	日時	令和7年 10 月 23 日
	場所	ホール
	資料・教材	野菜の写真と断面図の写真
	実施内容	誕生会で、野菜の断面の写真を見せて、野菜の名前を当てるクイズを行う その後、事務所前の廊下にクイズに使用した写真を貼り、子どもたちが自分でめくれるようにコーナーを作成した。
結果・参加者の反応や様子		・断面図クイズでは、分かった食材の名前を声に出してクイズを楽しむ姿があった。 ・「やさいのおなか」クイズ自体が難しい低年齢の子ども達も、野菜を見て指を差して「にんじん！」等と喜ぶ姿があった。 ・廊下にクイズに使用した写真を貼り、子どもたちが自分でめくれるようにコーナーを設けたことで、身近にクイズを楽しんでいた。また、廊下が送迎時にも通る場所なので、親子のやり取りに繋がっていった。
評価・今後の課題		・ゴーヤやアボカドなども、給食ではあまり登場しないような食材も形の面白さに気付く姿があった。 ・今回の「やさいのおなか」クイズは、子ども達が自分で紙をめくって楽しめるように写真でクイズを行ったが、実物を見せるなどしても魅力があったように感じる。ねらいに応じて方法を検討していきたい。
備考		

施設名	さいたま市立大成保育園	電話	048−667-2559
住所	さいたま市大宮区大成町３−655−１		

事例１６	タイトル	バランス良く食べて元気なからだをつくろう
目指す姿（大きな目標）		食材の栄養素を知り、バランス良く苦手なものも食べてみようとする。
当日のねらい（小さな目標）		職員劇(食育レンジャー)を通して元気な体を作るための方法を知る。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児・1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・5歳児・保護者・その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭・保育士・栄養士・調理師・調理員・その他（　　）
	日時	令和7年 6 月 10 日（火）
	場所	ホール
	資料・教材	えいようのうたの歌詞ポスター　ごはん・肉・野菜のイラスト
	実施内容	保育士による集会…好き嫌いの多い子どもが食育レンジャーの登場によって苦手なものも食べてみようとする劇を行う。また食べ物には仲間分け（3 大栄養素）ができること、その仲間をバランスよく食べると元気な体になることも劇中で伝える。最後に『えいようのうた』を歌い、どの食材が何色の栄養素なのか覚えやすく伝える。 保護者向け掲示…劇で使用した歌詞ポスターと集会の様子を写真と共に掲示する。
結果・参加者の反応や様子		・集会を通して苦手と感じている食品も一口食べてみようとする子どもの姿が見られた。 ・集会後、毎日使われている食材を回覧した際、栄養素の仲間分けができるように、3〜5 歳児クラスに 1 枚ずつ、栄養素シートを作成し配布した。食材を見ながら「何色？」「（栄養素は）〇色だよね」など、栄養素シートを活用して保育士や子ども同士で伝え合う姿が見られた。 ・送迎時に『えいようのうた』の歌詞ポスターや掲示を見ながら会話する親子の姿があった。
評価・今後の課題		子どもたちが栄養について楽しく学ぶきっかけとなった。集会での学びを継続して活かせるような取り組みも集会後にできたので深い学びに繋がった。 保護者の目に留まりやすいホール前の壁に掲示したことにより親子で見る場面が多く見られた。今後もバランス良く食べることが元気な体をつくるということを発信していきたい。
備考		

施設名	さいたま市立寿能保育園	電話	048-644-0470
住所	さいたま市大宮区寿能町２丁目１４０		

事例１７	タイトル	いろいろな国の食べ物を知ろう
目指す姿（大きな目標）		日本や外国の食に興味を持ち、食材の大切さを知る。
当日のねらい（小さな目標）		・各国の食材や料理を知る。 ・お米の作り方を知る。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ (3歳児) ・ (4歳児) ・ (5歳児) ・ 保護者 ・ その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ (保育士) ・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（　　）
	日時	令和7年 9 月 18 日(木) 10 時 30 分～
	場所	5 歳児保育室(ホール)
	資料・教材	国旗のイラスト、各国の食事の写真、絵本 （日本、中国、イタリア、ネパール、ベトナム）
	実施内容	給食メニューや子どもたちに馴染みがありそうなメニューの写真を見せながら、クイズ形式で国ごとに料理の紹介をした。また、新米の時期だったので、日本以外にも様々な国の米の種類があることを伝え、どのように作られているかなど絵本を使って紹介した。
結果・参加者の反応や様子		・メニューの写真を見て、「知っている」「食べたことがある」という声があがり、運動会前の取り組みで国旗の絵を描いた子たちは、国の名前にも興味を示したりする様子があった。メニューの写真は給食や家庭で食べたことがあったり、日常生活の中でよく目にする料理などを用意したため、「おいしそう」という声もあがっていた。自身の国旗を見て嬉しそうに自信をもってクイズに答える外国籍の子の姿もあった。 ・お米の紹介では、田植えからご飯になるまでの絵本「いちにちおこめ」(作ふくべあきひろ)を保育士が読み聞かせをしたところ、「稲一束でお茶碗半分の量がとれるんだね」などと、新しい発見につながり集中してみていた。
評価・今後の課題		・子どもたちが各国の食や国旗に興味を持っていた。写真だけではなく、触れたり香りを感じられたりできるように、実物の米や香辛料などを用意できればよかった。 ・在園している子どもたちの国の他にも、他国の食材やメニューを紹介できれば、よりいろいろな国の食べ物を知る機会が持てたと思う。
備考		

施設名	桜木保育園	電話	048-641-1229
住所	さいたま市大宮区桜木町 1-185-2		

事例１８	タイトル	食育集会「おみそ汁のヒミツ～だしについて知ろう～」
目指す姿（大きな目標）		出汁について知ったり、出汁を飲んだりする活動を通して、身近な食べ物に興味を持ち食べる意欲につなげる。
当日のねらい（小さな目標）		保育者と調理師が食育活動を通じて連携する。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ (3歳児)・(4歳児)・(5歳児) ・ 保護者 ・ その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ (保育士) ・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（　　）
	日時	令和7年 12 月 15 日
	場所	ホール
	資料・教材	プロジェクター（PC）、こんぶ、にぼし、鰹節、ボウル、鍋、ザル、出汁、紙コップ
	実施内容	ホールで3．4．5歳児対象に実施した。プロジェクターを利用して、調理師の紹介と共にクイズ形式でみそ汁や出汁について伝えた。子どもたちが実際に昆布、鰹節、煮干しを触ったりにおいをかいでみたりしてから、職員が出汁の取り方を実践した。最後に給食室から当日のみそ汁で使用される煮干し出汁を提供してもらい、子どもと職員で試飲した。
結果・参加者の反応や様子		クイズ形式にしたことで、子どもたちも参加しやすく、楽しんでいる姿が見られた。以前にも調理師の紹介をしたので、子どもたちも覚えていたようだった。実際に昆布や煮干し、鰹節に触れたりにおいをかいだりしたことで、様々な感想が聞かれた。特に煮干し出汁は、子どもによっては苦手に感じるという感想があったものの、味噌が加わり味噌汁となることでおいしくなると知り、驚いていた。当日の給食のみそ汁を食べる際には、出汁の味を思い出しながら何度も飲んでみたり、年長児からは「味噌が入るとおいしそうだな」といった声が聞かれたりした。
評価・今後の課題		当日のみそ汁の残量が、いつもより少なかったとのことだった。だしについて取り上げた内容が、子どもたちへの食への関心や意欲につながったと思う。今後も別の食材やメニューで機会をつくっていく。 今回は3．4．5歳児向けの集会であったが、今後はほかのクラスでも行えるようにしたい。引き続き、調理師と協力し合いながら、給食室と子どもたちが身近な関係になるようにする。
備考		

施設名	大和田保育園	電話	048-683-2536
住所	さいたま市見沼区大和田町１－１２３０－９２		

事例１９	タイトル	ポップコーン　おいしかったよ
目指す姿（大きな目標）		・ポップコーン用とうもろこし（爆裂種）の種をまき、水やりを通して成長過程を知る ・オープンクッキングを通して音やにおいを感じながら味わう
当日のねらい（小さな目標）		調理過程を見学しながら、出来上がりを楽しみにする
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2(歳児) ・ 3(歳児) ・ 4(歳児) ・ 5(歳児) ・ 保護者 ・ その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ (保育士) ・ 栄養士 ・ 調(理師) ・ 調理員 ・ その他（　　）
	日時	令和7年 11 月 13 日（木）
	場所	5 歳児室
	資料・教材	
	実施内容	種まきをし、成長過程を観察してきた。9 月下旬より収穫を始め、日陰干しを行い、乾燥させたものを 5 歳児の子ども達が 1 粒ずつ粒を取りはずした。 当日は、2～5 歳児がクラスごとに 5 歳児室に集まり、調理師がフライパンを使って調理する様子を見学した。出来上がったポップコーンを 1 人ずつ袋詰めしてもらい、3 歳児室に用意されたイートインコーナーで食べた。
結果・参加者の反応や様子		高温の時期が続き、成長が遅れたため、収穫からの工程が、当初の予定より遅くなった。また、発育不良の物も多かったため、出来上がりの量が心配されたが、全員に 5～6 粒程度のポップコーンを配ることが出来た。当日は、調理師が調理する前に座り、フライパンの中ではじける音を出しながら膨らむ様子に「おとがしてる」、部屋中に漂う香ばしい匂いに「いいにおい」と口にしながら、興味深げに見ていた。フライパンのふたをあけ、出来上がったポップコーンが見えると、「うぁ～」と歓声をあがった。1 人ずつ袋に入れてもらい配られると嬉しそうに手に持ち、イートインコーナーになっている 3 歳児室に移動して、友だちとおしゃべりしながら楽しそうに食べていた。
評価・今後の課題		種をまき、育つ過程を観察する機会ができた。干して固くなったコーンを取り外す経験や固いコーンがポップコーンに変わることを五感で感じる機会もできた。 今後も種まきから収穫までの過程を確認しながら成長したことの喜びを感じる。また、収穫したものを調理する工程を見学し、五感を使って味わう経験が出来るような食材を考えていきたい。
備考		

施設名	さいたま市立七里保育園	電話	０４８（６８５）２７１７
住所	さいたま市見沼区大谷１９８５		

事例	タイトル	食育紙芝居
２０		
目指す姿（大きな目標）		様々な食材に親しみをもったり、食事の大切さを知ったりする。
当日のねらい（小さな目標）		食べ物がもつ栄養を知る。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・(2歳児)・(3歳児)・(4歳児)・(5歳児)・ 保護者 ・ その他（ ）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・(保育士)・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（ ）
	日時	令和7年7月9日（水）
	場所	ホール
	資料・教材	手作り紙芝居『栄養戦隊食レンジャー』
	実施内容	食品三色群をヒーローに例えて、どのような働きをするのか紙芝居で伝えた。
結果・参加者の反応や様子		紙芝居は集中して見る姿があった。当日の給食はナス入り麻婆豆腐で、普段はナスを残しがちな子どもたちだが、「ナスを食べたらグリーンレンジャーになれるかもしれない」と言い、食べてみようとする姿が見られた。 その他の食材についても「これは赤じゃない？」「これは黄色の仲間だよ」などと友だちや保育者と話し、食材や食材のもつ栄養について興味をもったり知ろうとしたりする姿が見られた。
評価・今後の課題		今回は紙芝居で見たが、次回以降の集会では実際に野菜を間近で見たり触れたりできるような企画を考え、1年を通して継続的に食べ物への興味関心をもてるようにしたいと思う。
備考		

施設名	さいたま市立片柳保育園	電話	０４８-685-4611
住所	さいたま市見沼区御蔵７９６		

事例２１	タイトル	夏の野菜に触れてみよう
目指す姿（大きな目標）		栽培した野菜や、おやつで出る野菜に触れることで食への興味関心を深める
当日のねらい（小さな目標）		栽培したスイカを全園児で触れる機会を持ち、収穫を喜ぶ トウモロコシの皮むきを通して、食材への興味関心に繋げる
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ (1歳児) ・ (2歳児) ・ (3歳児) ・ (4歳児) ・ (5歳児) ・ 保護者 ・ その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ (保育士) ・ 栄養士 ・ 調理師 ・ (調理員) ・ その他（　　）
	日時	令和7年7～8月
	場所	園庭・保育室
	資料・教材	スイカ・トウモロコシ
	実施内容	・5歳児が収穫したスイカを当番の子が中心となり、各クラスに持っていき触る機会をもつ。その後、5歳児はスイカのビーチボールを使用してスイカ割を楽しみ、給食でスイカを味わった。 ・4・5歳児一緒に、給食職員の「とうもろこしむくぞう」の紙芝居を見た後、おやつのトウモロコシの皮むきをした。
結果・参加者の反応や様子		・大切に育ててきたスイカを収穫し、5歳児はとても嬉しそうだった。他のクラスの子にも見せてあげたいということで、当番の子を中心にクラスを回り「優しく触ってね」と声をかけながら触らせてあげていて、異年齢のかかわりにも繋がっていた。小ぶりのスイカということもあり、1歳児も両手で持つことができとても嬉しそうだった。他のクラスの子の中にも、毎日畑をのぞいて楽しみにしている子がいたので収穫を園全体で喜ぶことが出来た。収穫したスイカは5歳児が少しずつだが食べ、「あまい」と味わって食べていた。 ・とうもろこしの皮むき前にお話を見たことで、興味を持って取り組んでいた。友だちとむき方を教えあいながら真剣に取り組んでいた。おやつの時には、「皮むいたんだよ」と他のクラスの職員等に伝える姿もあった。
評価・今後の課題		・野菜の栽培を通して、5歳児だけでなく他クラスにも興味関心が広がっていた。全クラスで、実際に触れる機会を持てたこともとても良かった。 ・給食の職員は日頃から、様々な面で食育のサポートをしてくれているので、今後も子どもたちと一緒に取り組めることを考えていきたい。 ・今後、農家さんと一緒に、たい肥作りを行っていくので、来年の野菜栽培への繋がりを園全体で考えていきたい。
備考		

施設名	さいたま市立東大宮保育園	電話	048-685-0601
住所	さいたま市見沼区丸ケ崎町 13-13		

事例 ２２	タイトル	食を身近に感じよう
目指す姿（大きな目標）		園の取り組みに関する掲示物を作成し、保護者発信をする。子どもたちが園で経験したことを親子の会話の話題にしてもらえるようきっかけを提供していく。
当日のねらい（小さな目標）		野菜の栽培や収穫を通して食材に関心を持つ。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・(1歳児) ・(2歳児) ・(3歳児) ・(4歳児) (5歳児) ・(保護者) ・ その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・(保育士) ・ 栄養士 ・ 調理師 ・(調理員) その他（　　）
	日時	令和7年度　年間を通して
	場所	保護者が送迎時に確認できる掲示物スペース ・ 保育室等の壁面
	資料・教材	写真掲示（A3・A4 用紙）
	実施内容	・野菜の栽培や収穫の様子を掲示した。また、子どもたちが入ることができない給食室内部の写真に説明を加えて”給食室をのぞいてみよう！“と題した掲示をした。 ・調理員の方に協力をしてもらい、子どもたちに人気のメニューであるカレーの行程を写真に撮ってもらった。パワーポイントを使って“カレーができるまで”を子どもたちに集会の中で紹介する予定。（1 月）
結果・参加者の反応や様子		・給食室と連携をして、収穫したスイカを切ってもらった時に写真を撮ってもらったり、カボチャを収穫した際に、切ったカボチャをオーブンで焼く時の写真を撮ってもらったりとすることができた。また、普段見ることができない給食室内部での写真を掲示することができた。「スイカの種こんなに入っていたんだね」「大きなトレーに並べてカボチャって焼くんだね」等、送迎時に子どもと会話をする保護者の声を多く聞くことができた。
評価・今後の課題		給食室の方にその都度相談をしながら連携を図って食育活動に取り組むことが出来たことが良かった。普段食べている給食がどのような場所でどのように調理をされるのかを知ることにも繋がった。
備考		1 月に予定している“カレーができるまで“を伝える食育集会では、調理員の方にも参加していただきながら、子どもたちにより興味を持ってもらうことができるような会にしていきたいと考えている。

おやさいすくすくだより

かぼちゃとなすのしゅうかくをしました！！

おおきなはっぱがはっぱがたくさんできていたなつ。
よ～くみると、かぼちゃのあかちゃんがいくつもできていました！
しゅうかくをたのしみにみずやりをしてすごしました！！

つやつやのかぼちゃ♡

９がつ、なす・かぼちゃがこんなにたくさんしゅうかくできました！！

１ごう・２ごう・３ごうは７がつにしゅうかくをしました。
みんなとてもうれしくて、てにもってみたり、つみかさねてみたり、かぼちゃのかんしょくをたしかめていました！

きゅうしょくしつのせんせいにちょうりをしてもらい、おいしくたべました！！

施設名	さいたま市立七里東保育園	電話	048-683-3969
住所	さいたま市見沼区新堤 40		

事例 ２３	タイトル	野菜の形当てクイズ
目指す姿（大きな目標）		食べ物に興味を持てるようにする。
当日のねらい（小さな目標）		形や感触を知り、野菜に親しむきっかけにする。
方法	対象者（〇で囲む）	(0歳児)・(1歳児)・(2歳児)・(3歳児)・(4歳児)・(5歳児)・保護者 ・ その他（ ）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ (保育士) ・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（ ）
	日時	令和7年 7 月 29 日（火）
	場所	ホール
	資料・教材	人参、ピーマン、キュウリ、キャベツ、ほうれん草、玉葱、トマト、えのき、米、箱
	実施内容	子どもたちが楽しんで参加できるよう導入として「やさいの歌」の手遊びとパネルシアターを行った。その後に、この日の給食に使われている野菜を箱の中に入れ、箱の中に入っている野菜を見ずに、触った感覚だけで当てるクイズを行った。子どもたちに実際に触ってもらう参加型にした。
結果・参加者の反応や様子		馴染みのある「やさいの歌」の手遊びから始めることで、楽しみながらこれから始まることへの期待感を高めている様子であった。クイズでは、実物を見ることができないため、形や感触だけで当てるのが難しそうであったが、見ている子たちがヒントを出し、そのヒントも参考にしながら考えて答えていた。やってみたい人を募ると大勢の子が挙手をしており、積極的に参加する姿が見られた。見ている子もやっている子に対して、色や形のヒントを出して一緒に楽しんで参加していた。最後に、クイズに出てきた野菜が今日の給食で使われていることを伝えると、給食の時に「ピーマンあった、これはきゅうりだ」などと野菜に興味を示しながら食べる様子が見られた。
評価・今後の課題		園全体で楽しめたのでよかった。その日のメニューの食材をクイズにしたことで、集会だけで終わらず、給食時にも引き続き興味を持つことが出来ていた。今年度は一回のみの開催になったが、色々な食材に触れるため、定期的に開催していき、子どもたちの食へ対しての興味関心を広げていきたい。
備考		

施設名	さいたま市上落合保育園	電話	048-852-1587
住所	さいたま市中央区上落合 2-9-10		

事例２４	タイトル	食べ物と自分の体の関係について知る
目指す姿（大きな目標）		好ましい食習慣を身につける
当日のねらい（小さな目標）		子どもたちが楽しみながら体にとって良い食べ物を知り、自分の元気な体の状態を感じる
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ (1歳児) (2歳児) ・ 3歳児 ・ 4歳児 ・ (5歳児) 保護者 ・ その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ (保育士) 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（　　）
	日時	令和7年　12 月 12 日(金)
	場所	1、2歳児　5 歳児室
	資料・教材	・食育エプロンシアター（なんでも食べる元気なまあちゃん）・食材（当日の給食のスープで使用する食材のキャベツ、えのきだけ）　・食材の絵がついている手作り三角帽子
	実施内容	・給食前に 5 歳児が乳児クラスに行き、様々な食材の絵がついている三角帽をかぶって「えいようのうた」を歌う。 ・保育士が 5 歳児に食育人体エプロンシアターを行い、口の中に入った食べ物がうんちになるまでの道筋を分かりやすく伝える。バナナうんちは元気な証拠と伝え、当日の給食に出る食材を紹介しながら、体にどのような作用があるかを伝える。 ・保護者に向けて、さいたま市の食育やそれを受けての自園の食育を掲示する。
結果・参加者の反応や様子		・乳児クラスは、5 歳児の姿に喜び、期待を持って見ている。「えいようのうた」の内容は難しいようだったが、三角帽についている食材に興味を持つ姿があり、食欲に繋がった。 ・5 歳児で行った人体エプロンシアターでは、春に一度行ったことを覚えており、「まあちゃんだ」とすぐに受け入れる姿があった。今回は違う内容で、体の中の構造にも触れた。小腸を外しその長さを見せると「すごい長い」ととても驚いており、視覚で実感しているようだった。実際の食材を見せることで更に関心が増し、「きのこ、すきだからバナナうんちが出るよね」という声が聞かれ、食べ物と排便の関係について関心を持つ様子が見られた。
評価・今後の課題		・春に行ったエプロンシアターの内容を変え、再度行ったことで認識の深まりを感じた。 ・取り外しできる人体エプロンや本物の食材を使ったことで、視覚的に分かりやすく、興味関心を引き出すことができた。 ・人体エプロンは子どもが実際に手に取り、触れられるようにすると、より自分の体の仕組みを身近に感じられると考えられるので、今後取り入れていきたい。
備考		

さいたま市の食育や
それを受けての上落合
保育園が考える食育を
掲示しています

年長クラスの子が乳児クラスの子に
「えいようのうた」を歌っています

みんなで作った栄養の三角帽子

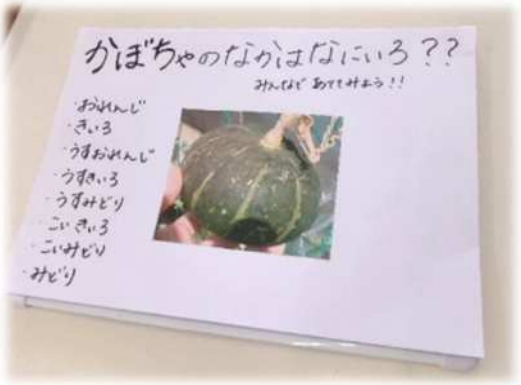
みんなの体の中だよ。口から入
った食べ物はどうなるのかな

エプロンシアター
「なんでも食べる元気なまあちゃん」

小腸の長さを知って、子どもたちはビックリ！

施設名	さいたま市立大戸保育園	電話	048-853-2410
住所	さいたま市中央区大戸 2-7-19		

事例 ２５	タイトル	カボチャの中身は何色？
目指す姿（大きな目標）		野菜の栽培から収穫、食べるまでを経験する。
当日のねらい（小さな目標）		カボチャの中の色を知ったり、よく観察したりして野菜に親しみを持つ。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ 3歳児 ・(4歳児) (5歳児) 保護者 ・ その他（ ）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・(保育士)・ 栄養士 ・ 調理師 ・(調理員)・ その他（ ）
	日時	令和7年 7 月 10 日
	場所	保育室
	資料・教材	カボチャ、包丁、まな板、クイズシート
	実施内容	4.5 歳児が育てたかぼちゃを収穫し、中の色を予想する。 調理員が子どもたちの目の前で切り、実際の色を確かめる。 その後、素揚げにし昼食時に提供した。
結果・参加者の反応や様子		野菜の栽培をするにあたり、子どもたちとどんな野菜を育てたいか話し合うことから始めた。受粉のタイミングが難しかったり、猛暑の影響から茎や葉がすぐに枯れてしまうといったこともあり、育ったのは 1 つのみだったが、その分、収穫をとても喜んでいた。 切る前に「中身は何色だと思う？」と保育者が質問すると「オレンジ、うす黄色、濃い緑」など様々な回答が出た。切れた瞬間には「おお～」と歓声が沸き上がっていた。「オレンジ！黄色！中は白いよ」と様々な色を見つけていた。 素揚げにして給食と一緒に出してもらうと「甘いね」「美味しいね」と会話をしていた。
評価・今後の課題		栽培から食べるまで一連の流れを経験した。カボチャが思ったように育たなかったことで、作物を育てる難しさも知ることができた。 野菜を切る様子を間近で見ることができ、調理員との関わりも生まれた。何気なく食事をするのではなく、色々な人の手が加わって食事ができることや、食べ物の大切さも知らせていきたい。
備考		



施設名	下落合保育園	電話	048-711-6720
住所	さいたま市中央区上落合 1-5-3		

事例２６	タイトル	・ポップコーンってどうやってできるの？
目指す姿（大きな目標）		・とうもろこしの栽培・収穫を通して、生長を知り食べる喜びを味わう。
当日のねらい（小さな目標）		・自分たちで作ったポップコーン用とうもろこしを間近で炒り、弾ける様子を観察し実際に食べる。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ 3歳児 ・ 4歳児 （5歳児） ・ 保護者 ・ その他（ ）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・（保育士） 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（ ）
	日時	令和7年 9 月 5 日
	場所	5歳保育室
	資料・教材	・ポップコーン用とうもろこし
	実施内容	・自分たちで買ってきた苗のとうもろこしとは別に、ポップコーン用のとうもろこしを種から育てる。子どもたちには何の種か伝えず収穫を楽しみにしてもらいクイズ等を行った。育ってくると「とうもろこしに似てる」と子どもから声が聞こえてきた。収穫前にポップコーンになるとうもろこしであることを伝えポップコーンになるまでの過程や工程を説明した。 ・収穫したとうもろこしを乾燥させ、実際にフライパンを使って弾ける様子を観察し、食べた。 ・4歳児を招待し、自分たちで育てたポップコーンを食べてもらう。
結果・参加者の反応や様子		・はじめは何ができるか分からず、水やりをしながら生長を楽しみにしていた。大きくなるにつれて、別で育てていたとうもろこしと姿が似ていることに気付き、子どもから「とうもろこしに似てるね」という声が出た。 ・ポップコーンにする為、乾燥させたり粒を取ったりする工程を伝えると張り切って行い、できるまで楽しみにしている姿が見られた。 ・フライパンで粒を炒ると、色んな音が聞こえてきてポップコーンが弾ける様子を間近で見ることが出来、興味を持っていた。 ・4 歳児を招待し、自分たちで作ったとうもろこしがどうやってポップコーンになるかの工程を 5 歳児に伝えてもらい、振り返ることも出来た。
評価・今後の課題		・自分たちの手で育てた物を実際に食べることができ、満足そうにしていた。 ・実際に目の前でポップコーンを作ることによって、子どもたちの興味・関心が高まるきっかけになった。今後も色んな経験ができるように、機会があれば取り入れていきたい。
備考		

施設名	さいたま市立鈴谷保育園	電話	048-855-1034
住所	さいたま市中央区鈴谷 7-3-31		

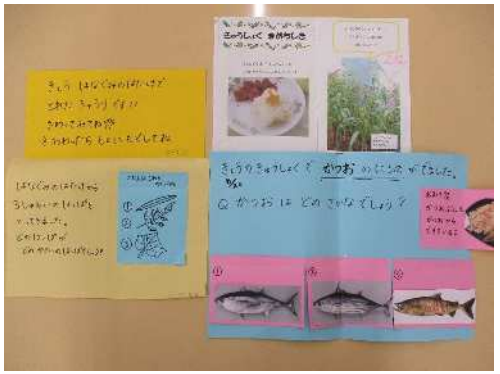
事例 ２７	タイトル	**給食豆知識**
目指す姿（大きな目標）		・食材や料理に興味や親しみをもち、食への関心を高めると共に食べてみようという意欲を育む。
当日のねらい（小さな目標）		・食材や料理に関するクイズを通して発祥などに興味をもつ。 ・実際に野菜に触れたり成長を観察したりする。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・（1歳児 ・ 2歳児 ・ 3歳児 ・ 4歳児 ・ 5歳児 ・ 保護者） その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・（保育士）・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（　　）
	日時	令和7年6月～12月
	場所	保育所玄関
	資料・教材	・食材や料理に関する掲示 ・触れることのできるきゅうりや野菜の葉の展示 ・人参、ネギ、小松菜の水耕栽培
	実施内容	① 給食やおやつに使用されている食材についてのクイズや、馴染みのない料理の発祥について掲示を行い、登降園の際に保護者と共に楽しめるようにする。 ② 5歳児クラスが育てていた畑のきゅうりや野菜の葉に触れることができるようにし、親しみをもてるようにする。 ③「おやさいおおきくなるかな？」をテーマに人参、ネギ、小松菜の切れ端で水耕栽培を行い、実物と共に写真での成長記録を掲示し、日々の変化を期待できるようにする。
結果・参加者の反応や様子		料理や食材に関する豆知識を玄関前に掲示したことで、登降園の際に保護者と一緒に楽しんで見ている姿があった。年齢によって自分では読めなかったり、少し難しい内容であったりしたが、保護者が代わりに読み説明することでやり取りも生まれていた。特に食材に関するクイズは積極的に行う子どもが多く、新しい掲示が出る度に繰り返し見ていた。 夏には5歳児クラスが育てたきゅうりを食べる機会があった。実際に触れることができるよう展示すると、きゅうりの感触や重みを感じより親しみをもつ様子があった。「はな組さん（5歳児クラス）のきゅうり食べたんだよ。」と食べたきゅうりと実際のきゅうりを繋げ、嬉しそうにする子どももいた。 豆知識の掲示から広げて水耕栽培を行ったが、少しずつ育っていく様子や根が生えるなどの変化を楽しみにし、観察したり、写真による成長記録を見て初日と比較し成長の程度に驚いたりしていた。また、実際に「家でもやってみたい」と保護者と話をする子どももいた。
評価・今後の課題		掲示を玄関で実施したことで子どもにも保護者にも目にとまりやすかった。 豆知識は月に4回程度掲示をし、長期的に楽しむことができた。 給食豆知識としての掲示だけでなく、そこから触れたり観察したりできる取り組みへと広げていく事で、より食べ物への興味を深めるきっかけになったのではないかと思う。 食材に関する掲示が多かったため、今後は料理に関する掲示を増やしていきたい。
備考		

R7 食育取組事例シート

▼給食豆知識

〇料理に関する豆知識

〇食材に関する豆知識・クイズ



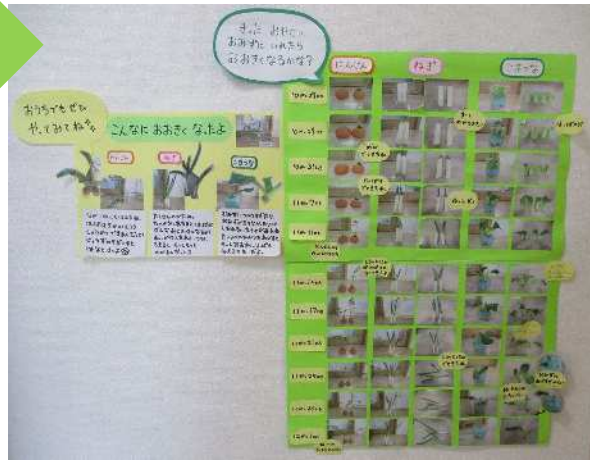
掲示の様子

玄関の見えやすい場所に

掲示しています。

掲示から広げて…

▼水耕栽培



施設名	八王子保育園	電話	048（855）4700
住所	さいたま市中央区八王子 5-27-17		

事例 ２８	タイトル	「食べ物の不思議」
目指す姿（大きな目標）		いろいろな食材に興味を持ち、食べてみようとする。
当日のねらい（小さな目標）		乾物や野菜の不思議に触れ、食材に興味を持つきっかけ作りをする。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・(2歳児)・(3歳児)・(4歳児)・(5歳児)・ 保護者 ・ その他（ ）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ 保育士 ・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（ ）
	日時	令和7年 5 月 22 日（木）
	場所	ホール
	資料・教材	乾物（わかめ、ひじき、切り干し大根、高野豆腐）） 野菜（オクラ、大根、きゅうり、にんじん、ピーマン、りんご） コップ、計量カップ、果物ナイフ、牛乳パック、干物ネット
	実施内容	食育集会として、博士に扮した保育者が実験をするという形で行った。 乾物：給食で使われている乾物を子どもたちの目の前で水に入れて戻す。戻す前の状態を見たり、触ったりにおいをかいだりした。 野菜：野菜を実際に目の前で切って見せ断面を見たり、触ったり、においをかいだりした。干物ネットに入れてしばらく干しておくことで変化を観察した。
結果・参加者の反応や様子		普段給食で食べている乾物の調理前の状態を知ったり、水で戻したときの変化を見たりすることで、乾物に興味を持つ姿があった。給食のメニューに乾物が使われている時に「このまえみたね」など思い出して食べる子もいた。野菜の断面は見たことがあったり、知っていたりする子も多かった。干したときの変化は初めて見ていろいろな発見にも繋がっていた。生の大根が、切り干し大根のように変化することに「おなじ！」と言ったり、ピーマンやきゅうりが赤や黄色に変化するのを見て「トマトになった」「レモンみたい」と驚いたりしていた。野菜によって乾いた時の硬さが違うことも実際に見て触ることで気づいていた。
評価・今後の課題		身近な食材の知らなかった面を知ることで興味に繋がっていた。乾物の紹介をした後に野菜を干してみることで、照らし合わせて変化を予想する姿もあった。しばらくの間干しておき見られるようにしたことで、継続して楽しむことができた。干物ネットは高い場所に下げてあったので、保育者が取らなければ見られず、保護者と一緒に見ることは難しかった。親子で楽しめるようにすることで更に食への興味に繋がると思った。
備考		

＜乾物の不思議＞

普段給食に出てくる乾物の「わかめ」「切り干し大根」「ひじき」「高野豆腐」を子どもたちの目の前で水を入れて戻し、見たり触ったりしました。知っているけど知らなかった乾物に興味津々でした。

＜野菜の不思議＞

「きゅうり」「れんこん」「おくら」「だいこん」「にんじん」「おくら」「ピーマン」「りんご」を目の前で切り、ネットに入れて干してみました。どうなるのかわくわくしているようでした。

施設名	さいたま市立大久保保育園	電話	８５４－８８１８
住所	さいたま市桜区大久保領家３７３－１		

事例２９	タイトル	おおくぼげんきごう　～バランスよく食べて元気な身体をつくろう～
目指す姿（大きな目標）		・掲示を通して、食に興味をもち、美味しく食べて元気に過ごす
当日のねらい（小さな目標）		・3色食品群に関してのクイズを通して、「あか・きいろ・みどり」の食べ物と体の関係を知る
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ 3歳児 ・ (4歳児) ・ (5歳児) ・ 保護者 ・ その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ (保育士) ・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（　　）
	日時	令和7年 9 月 18 日（木）
	場所	4 歳児室
	資料・教材	3 食食品群ボード えいようのうた
	実施内容	4，5 歳児対象に集会を行った。 ・当日の給食の紹介をし、食材クイズをする。 ・3 食食品群ボードを使って食材分けクイズをする。 ・えいようのうたをうたう。
結果・参加者の反応や様子		・5 歳児は、食材分けクイズを毎月 19 日『食育の日』に行っていたので、食材が何色の栄養かをよくわかって、積極的にクイズに参加していた。 ・実際に食材をボードに分けて貼ることを楽しみにしている児が多かった。 ・4 歳児も、食材によって、栄養の違いがあることが分かり、興味をもって話を聞いていた。 ・集会後の給食は、「野菜を食べると良いうんちが出るんだよね」等と、会話を楽しみながら、集会の話を思い出して、進んで食べる姿も見られた。 ・えいようのうたは、昨年度から歌っていたので、よく覚えていて元気に歌う姿が見られた。
評価・今後の課題		・保護者の通る場所に掲示をしたことで、掲示を通して送迎の時に子どもと会話を楽しむ姿も見られた。 ・5 歳児は、3 色食品群についてよくわかっている児が増えてきている。5 歳児クラスの当番活動に取り入れて、子どもたちが手に取れるようにすることで、日常的に食材についての興味を持っていけるようにしていきたい。 ・今後 5 歳児を中心にして、他クラスに教えてあげる機会をつくりながら、栄養についての興味を広げていけるようにしていきたい。
備考		

施設名	さいたま市立田島保育園	電話	048-862-3425
住所	さいたま市桜区田島２－１６－７		

事例 ３０	タイトル	めざせお姫様！
目指す姿（大きな目標）		バランスの良い食事が大切ということを知り、積極的に食べようとする。
当日のねらい（小さな目標）		楽しみながら食の大切さを知っていく。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2(歳)児 ・ 3(歳)児 ・ 4(歳)児 ・ 5(歳)児 ・ 保護者 ・ その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ 保(育)士 ・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（　　）
	日時	令和7年 10 月 23 日（木）
	場所	田島保育園 4 歳児室
	資料・教材	オリジナル食育劇
	実施内容	バランスの良い食事をする大切さを子どもたちにわかりやすく、楽しく伝えていくために、誕生会の出し物としてオリジナルの食育劇を行う。
結果・参加者の反応や様子		城に住むお姫様がお菓子ばかり食べていて、運動会で活躍できずにいると、魔法使いがバランスの良い食事をすることで力が出るということを教える、という内容の劇であったため、子どもたちに伝わりやすく、多くの笑顔が見られた。その日の昼食の残菜は少なかった。 また、数日後に配役の職員が衣装をつけて各クラスを回り、振り返りを行うと子どもたちから「いっぱい食べると元気が出るんだよね」「（食べるから）見ててね」などと声が上がり、浸透していることが伺えた。
評価・今後の課題		現在でも時折「お姫様みたいになれるかな？」「たくさん食べて元気いっぱいになる」などと子どもたちから声が出ている。意識づけと言う意味では功を奏したが、この意識を持続させていくことが大切である。食育劇だけに限らず、食への興味、意欲を高めていけるよう活動していきたい。
備考		

R7 食育取組事例シート

施設名	さいたま市立　白鍬保育園	電話	０４８－８５４－５５３９
住所	さいたま市桜区白鍬５１１		

事例３１	タイトル	乾物をもどしてみよう！
目指す姿（大きな目標）		様々な食材に興味や関心を持つ。
当日のねらい（小さな目標）		乾物について知り実際に見たり触ったりして楽しむ。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ 3歳児 ・ (4歳児) ・ (5歳児) ・ 保護者 ・ その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ (保育士) ・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（　　）
	日時	令和7年 10 月　31 日
	場所	５歳児保育室
	資料・教材	乾物(わかめ、春雨、高野豆腐、切り干し大根、ひじき)
	実施内容	乾物についての話やどのような乾物があるのか話す。 異年齢ごとに乾物(わかめ、春雨、高野豆腐、切り干し大根、ひじき)を観察する。その後乾物をぬるま湯に入れ戻して更に観察し、戻した後に再び見て触ってみる。 乾物の様子、変化が分かるように各クラスに水につけたままの乾物を置いた。 保護者向けには、集会の様子の掲示と使った乾物を展示した。
結果・参加者の反応や様子		乾燥した状態の乾物を見て知らない子どもが多くいたが、イラストを基に説明し、水に戻すと「お味噌汁のわかめになった」などと驚いた様子があった。 乾物(高野豆腐)を水にもどす前は匂いを嗅いだり触ったりしていた。戻した後は「固かったのにスポンジみたいになった」など新たな発見があった。 異年齢で取り組み、5 歳児が 4 歳児に「これがわかめで、こっちが春雨だよ」と教えてあげる姿も見られ交流にもなった。
評価・今後の課題		グループごとに 1 セットずつ乾物を置いたので、近くで水に戻る様子を見ることができ、あまり触れることのない乾物について知る機会になった。乾物に触れることはできたが、どのように乾物が作られているのかイメージが湧いていないようなので、身近な食材の皮を干して乾物になる様子を見て実体験から知ることが出来るように継続していきたい。
備考		

施設名	さいたま市立西堀保育園	電話	048-865-0271
住所	さいたま市桜区桜田３－９－１２		

事例 ３２	タイトル	さつまいもはどうやって大きくなるの？
目指す姿（大きな目標）		芋堀りの経験を通して、さつまいもに興味、関心を持つ。 来年度に向けてさつまいもを保存し育てていく
当日のねらい（小さな目標）		絵本や手作りの大きなパネルを使い、さつまいもができる過程を知る。実物を用意して、実際に子ども達と一緒に冬支度をする。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ 3歳児 ・ (4歳児) ・ (5歳児) 保護者 ・ その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ (保育士) ・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（　　）
	日時	令和7年 11 月 12 日(水)
	場所	5 歳児保育室
	資料・教材	絵本・パネル「さつまいものいちねん」・さつまいも・土・藁
	実施内容	・4.5 歳児クラスの子ども達に芋掘りの経験からさつまいもの話をしていく。 ・絵本「さつまいも」を読み聞かせたり、大きな模造紙に一年で育っていく過程を描き、伝える。 ・子ども達と一緒にさつまいもを新聞紙で包み、土、藁を入れて冬支度をする。
結果・参加者の反応や様子		・楽しかった芋ほりを思い出しながら、さつまいもの絵本やパネルに関心を持ち、よく観ていた。後日おやつにスイートポテトが出ると「新聞紙でかくしたんだよ」と話していた。 ・さつまいもの種類がたくさんあることに興味を持っていた。さつまいもの１種がタピオカの原料になることを話す子もいた。 ・種芋の作り方を見て、「どうなるんだろ？」と疑問を抱く姿が見られたり、芽が出たら１本ずつ植えることを伝えると驚いていた。給食やおやつに提供されているさつまいもの育ちへの興味の芽生えになった。 ・子ども達と一緒に新聞紙でさつまいもを包み、「春になったら植えるんだよ」と楽しそうに話す姿があった。 ・使用する藁を実際に触ってみて、「カサカサしてる」「かたいね」と感じたことを言葉にしていた。 ・藁を被せる時、藁を昔は布団代わりに使用していたことを伝えると、初めて知った子もいて驚いていた。
評価・今後の課題		・簡単にさつまいもが出来るのではなく、色々な過程や人の手が加わることで美味しいさつまいもが出来ることを伝えることが出来た。 ・絵本やパネルで種芋の作り方を知らせ、いつでも見られるように子どもたちが見やすい場所に掲示したことで、興味を持ってよく見ていた。 ・芋ほりの経験はあるが、種芋を植え、どのように成長していくかを子どもたちと一緒に観察し育てていくことが、食育の貴重な経験となるように子ども達と一緒に保育者も楽しみながら取り組んでいきたい。
備考		

施設名	さいたま市立上大久保保育園	電話	048-855-4801
住所	さいたま市桜区上大久保 940-3		

事例 ３３	タイトル	**夏野菜を食べて夏を元気に過ごそう**
目指す姿（大きな目標）		夏野菜について知り、食への興味を深める
当日のねらい（小さな目標）		夏野菜についてクイズで楽しく知り、食べてみようとする
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ (3歳児)・(4歳児)・(5歳児) 保護者 ・ その他（ ）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 (保育士)・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（ ）
	日時	令和 7 年 7 月 15 日
	場所	ホール
	資料・教材	・夏野菜（カボチャ、キュウリ、トマト、ナス、オクラ、ピーマン）
	実施内容	・ホールで3歳～5歳を対象に集会をする ・夏野菜について〇×クイズや野菜当てクイズをする ・実際に夏野菜に触れる
結果・参加者の反応や様子		・クイズ形式にしたことで子どもがクイズに正解することを喜び、楽しんで参加していた。クイズを通してナスの花の色は何色か、キュウリのとげがどうしてあるのかなど写真やイラストで伝えたことで興味を持ってよく見ていた。 ・実際に夏野菜を触り、子どもはカボチャの重さやピーマンの匂いに驚き、オクラの断面を見て「星形でかわいい」と喜んでいた。 ・集会の日の給食は「ご飯、夏野菜のそぼろあん、わかめサラダ、みそ汁」と夏野菜を多く使ったメニューだったため、子どもは給食を食べながらクイズで出た野菜を探して食べてみる姿があり、喫食状況はとても良かった。
評価・今後の課題		・食育集会から食材への興味が深まり、普段から食材を探しながら給食を食べる姿や野菜を食べてみようとする姿が見られるようになった。今後も子どもが食への興味を持てるようクイズなどを取り入れながら楽しく親しめるようにしていきたい。 ・集会の内容を「食育だより」として保護者に配信し、クイズを一部載せて親子で一緒に考えられるようにした。集会の様子を知り、保護者から「楽しそう」という声も聞かれた。
備考		

施設名	岸町保育園	電話	048-822-3010
住所	さいたま市浦和区岸町６－５－１２		

事例３４	タイトル	のこさずたべようの日
目指す姿（大きな目標）		食べ物に興味をもち、食べ物を大切にする気持ちをもてるようにする
当日のねらい（小さな目標）		無理のない範囲で自分の決めた量を残さず食べてみる
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・(3歳児)・(4歳児)(5歳児) 保護者 ・ その他（ ）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・(保育士)・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（ ）
	日時	令和7年10月30日
	場所	各部屋
	資料・教材	絵本『もったいないばあさんのいただきます』『もうじきたべられるぼく』『いちにちおこめ』
	実施内容	食品ロス削減の日（10月30日）を子どもたちにも分かりやすいように「のこさずたべようの日」と名称を変え、2 日前の食育集会にて紹介した。また、食育集会の約1週間前から、25冊の絵本を食育絵本コーナー（ホール）に設置し、保育者がクラスの読み聞かせの時間に読んだり、ホールに遊びに来た子どもたちが自由に読んだりできるようにした。当日の給食前には「残さず食べよう」がテーマとなっている上記の絵本を各クラスで読んでもらった。また、その日の食事の様子の写真掲示も行った。
結果・参加者の反応や様子		様々な取り組みが食べ物を大切にする心や残さず食べようとする気持ちに繋がったようで、3クラスともに以前と比べて残飯が減った。きのこや野菜等の苦手な食材にも挑戦したり、「ピカピカだよ」と完食したお皿を保育士に見せてくれたりともりもり食べていた。 食育絵本コーナーの絵本は3、4、5歳児クラス以外でも読んだ。1歳児クラスでは、絵本から刺激を受け、「うさぎさんみたいににんじん食べる」「スプーンちゃん持ってるよ。自分で食べるの」と意欲的に食べる姿が見られた。
評価・今後の課題		今回の取り組みが食に興味をもつことや苦手なものも少し食べてみようと挑戦することに繋がって良かった。「一個だけ食べてみる？」と保育者に声をかけられるよりも、絵本を通して楽しく食に触れる方が子どもたちにとっては食べようという気持ちになりやすいのだと感じ、絵本の力の大きさを知る機会にもなった。今後も色々な食育絵本を通して、子どもたちが楽しく分かりやすく食に触れられるようにしていきたい。
備考		〈食育絵本を選んだときのポイント〉 ・様々な年齢向けの絵本 ・季節に合わせた絵本 ・クラスの悩みに寄り添った絵本 ・ポリポリ、シャリシャリ等の食感の擬音語がある絵本

施設名	さいたま市立本太保育園	電話	048-882-3561
住所	さいたま市浦和区本太 4-3-1		

事例 ３５	タイトル	野菜のおなか・野菜のお花・野菜の葉っぱ
目指す姿（大きな目標）		食事のマナーや食具の使い方を覚え、友だちと楽しく食べる。 身体について関心を持ち、自分から進んでいろいろな食品を食べようとする。
当日のねらい（小さな目標）		野菜クイズを子どもの目線の高さに掲示し、子どもが興味を示すことで保護者も一緒に掲示を見る機会を作り、親子で食への興味関心を深める。
方法	対象者（〇で囲む）	〇歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ 3歳児 ・ 4歳児 ・ 5歳児 ・ 保護者 その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ 保育士 ・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（　　）
	日時	令和7年 7 月～12 月
	場所	保育園正門周辺・階段踊り場
	資料・教材	野菜の写真（めくって正解を見るクイズ）
	実施内容	R7.7月に実施した食育集会の中で4・5歳児が畑やプランターで栽培している夏野菜のおなか・夏野菜の花クイズを実施。その後、子どもの目線の高さに掲示する。 R7.10 月に 5 歳児の芋ほり後、秋の野菜や果物・芋の葉っぱクイズを掲示する。 子ども向けの掲示以外にも、保育園のカレーの味付けクイズや人気レシピの掲示・配布を合わせておこなった。
結果・参加者の反応や様子		昨年度、保護者支援でアンケートを取ったところ、子どもが興味を示す物を掲示している時の方が保護者からの反応があり、食育についても子どもの目線に掲示することで、親子で見て共に興味関心を深めてほしいと実施した。 内門の掲示は登降園時に子どもたちが興味を示して見たり、親子でクイズを出し合ったりして良く見ていた。隣にある畑やプランターを覗いている姿も多かった。 階段の踊り場の掲示は 0～2 歳児が登降園時・園庭に出る時など目に触れる機会が多く、触るなどして興味を示している様子だった。 5 歳児の芋掘り後、さつまいもを使ったレシピを配布したところ、連絡帳に「作ってみました」と書いてきてくれた家庭があった。
評価・今後の課題		昨年度よりも人気レシピを持ち帰る人が増え、保育参加の時によく食べていたメニューを知りたいとの声が上がるなどして、保護者にも興味関心が広がっていることが伺える。 給食室とも連携して野菜の皮むきなど、食材に触れる機会を作っているが、実際に調理する様子を見せてもらい給食が身近になるような集会を考え実践する。
備考		

施設名	領家保育園	電話	048-831-4378
住所	浦和区領家 7-14-16		

事例 ３６	タイトル	トウモロコシの皮むきから皮あそび
目指す姿（大きな目標）		トウモロコシの皮むきを楽しむ中で食材に興味を持ち、食べることへの意欲へと繋げる。
当日のねらい（小さな目標）		食材に実際に触れる。食べるだけではない食材のおもしろさを感じる。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ 3歳児 ・ 4歳児 ・ (5歳児) ・ 保護者 ・ その他（ ）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ (保育士) ・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（ ）
	日時	令和7年 7 月 15 日、7 月 30 日
	場所	5 歳児保育室
	資料・教材	トウモロコシ
	実施内容	・トウモロコシの皮むきをする ・皮であそぶ ・皮を干す ・干した皮を使ってオーナメント製作をする。 ・あそびの様子や製作物を園全体で見られるところに展示・掲示をする。
結果・参加者の反応や様子		・トウモロコシの皮むきでは、中から知っているトウモロコシの粒が出てくると「黄色いね。でもなんでここは白いんだろう？」と不思議に思ったことを言葉で伝え合ったり発見を楽しみ、喜びの表情を浮かべる。茎を折る際に友だち同士で手伝い合いながら行っている。 ・トウモロコシのヒゲや皮をボールにして投げたり皮でスカートを作ったりする中で、全身で食材を感じている姿がある。片付けの際には頭についたヒゲを互いに取ってあげる姿もある。 ・皮を干したことで、感触が変わったことに気づく。丁寧に編み込みをし、オーナメントが完成すると飾られた作品を見て喜んでいる。 ・オーナメントや製作の様子を園全体で見られるように写真掲示したことで、親子で見て会話に繋がる様子もある。
評価・今後の課題		・実際に食材に触れるという経験は触覚・嗅覚・視覚・聴覚で楽しむことができ、子どもたちが得られるものが多いと感じる。 ・1 日で終わらず、1 つの物で様々な楽しみ方ができたこともあそびが繋がって良かった。 ・トウモロコシだけではなく、様々な食材に触れる機会を重ねていくことで、食材への興味や食べることへの意欲へと繋げていけると良い。
備考		・word にて写真資料添付あり。

↓皮むきの様子

↓皮あそびの様子

↓トウモロコシの皮製作の様子

施設名	駒場保育園	電話	048-886-9200
住所	さいたま市浦和区駒場 1-27-7		

事例 ３７	タイトル	食育集会
目指す姿（大きな目標）		旬の食材についてみんなで知ろう
当日のねらい（小さな目標）		旬の食材に触れ興味を
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ 3歳児 ・ 4歳児 ・ 5歳児 ・ 保護者 ・ その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ 保育士 ・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（　　）
	日時	未満児：令和 7 年 6 月 19 日(木)　　以上児：令和 7 年 6 月 20 日(金)
	場所	1 歳児室・ホール
	資料・教材	パネルシアター・スケッチブックシアター 食材(きゅうり、トマト、ナス、トウモロコシ、ピーマン、オクラ、ズッキーニ)
	実施内容	未満児クラス：1歳児室に集まり、夏野菜の簡単なスケッチブックシアターで野菜の説明をした後、クラスごとに分かれて本物の夏野菜に触れる時間を作った。 以上児クラス：ホールに集まり、旬の食材を食べると、どんな良いことがあるかということを話し、その後パネルシアターを使って野菜をクイズ形式で春夏秋冬に子どもたちと一緒に分けた。最後はクラスごとに本物の夏野菜を回覧して触れる時間を作った。
結果・参加者の反応や様子		集会を行った時期が6月だったのでこれから旬になる夏野菜を取り上げて、実際に子どもたちに、これからおいしくなる野菜をシアターで説明した。本物の野菜に触れる時間ではどのクラスの子もとても興味を持っており、実際に自分の手で触れて感触の違いに気づいたり、匂いを嗅いでみたりとそれぞれ子どもたちなりの反応が見られた。 旬の食材を扱ったことで、子どもたちからも給食の時間に夏野菜が入っていると教えてくれたり、夏野菜に興味を持つきっかけになっていた様子であった。
評価・今後の課題		今はスーパーに行くと旬ではない物もいつでも手に入るようになっているので、改めて子どもたちと旬の物の良さを確認したことで、旬の物を少しでも知るきっかけを作ることができた。 今回は野菜の紹介をしたが、旬の果物や魚など他の食材もあるので、今後子どもたちと一緒に他の食材を知る機会を作っていきたい。
備考		

旬の野菜・果物クイズをしました！
どの季節にどんな旬の食材があるのか、
よく考えていました。
園で育てていることもあり、
夏の旬の食材は正解が多かったです！

実際に夏野菜に触れてみました！
やっぱり本物のパワーはすごい！
みんな興味津々でにおいを
嗅いだり触ったりしていましたよ！

施設名	浦和中央保育園	電話	822-2067
住所	さいたま市浦和区仲町 2-13-7		

事例 ３８	タイトル	親子で楽しむ「たべもの くいず」
目指す姿（大きな目標）		“食”に興味を持つ。
当日のねらい（小さな目標）		親子で食に関するクイズを楽しむ。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 (1歳児) (2歳児) (3歳児) (4歳児) (5歳児) (保護者) その他（ ）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 (保育士) ・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（ ）
	日時	令和7年 8 月、10 月
	場所	事務所前
	資料・教材	クイズの掲示物
	実施内容	季節の野菜について親子で考えられるクイズを各回 3 問ずつ掲示し、選択肢から正解だと思う物を選び、シールを貼って答えられるようにした。1 週間後に正解発表を行った。
結果・参加者の反応や様子		興味を持ち、参加する家庭が多かった。保護者が問題を読み上げ子どもが考えたり、親子で一緒に考えたりする姿が見られた。実際に園庭で栽培している夏野菜を見に行く様子もあった。また、園内で子ども同士でクイズを話題にあげる姿もあり、関心の高さがうかがえた。正解発表を楽しみにしていた。
評価・今後の課題		写真やイラストを使用したことで、注目してもらうことができた。また、シールを貼るのみの参加方法が手軽だったことで、多くの親子が参加してくれた。 5 歳児が栽培している野菜を取り上げ、実物を見られるようにしたり、難しい問題にして親子で考えられるよう工夫したりしたことで、親子の食に関する会話や食への興味に繋がった様子があった。
備考		

施設名	さいたま市立常盤保育園	電話	８３３−８７３０
住所	さいたま市浦和区常盤９−３−１６		

事例 39	タイトル	どこを食べているのかな？
目指す姿（大きな目標）		食への関心を高め、食べる意欲に繋げていく。
当日のねらい（小さな目標）		食材回覧や野菜の可食部表、食育講座を通して普段から自分たちが食べているのは野菜のどの部分であるかを知り、食に興味を持つ。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ (3歳児) ・ (4歳児) ・ (5歳児) ・ 保護者 ・ その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ (保育士) ・ (栄養士) ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（　　）
	日時	令和7年9月30日（火）
	場所	3・5歳児保育室
	資料・教材	パネルシアター 野菜の可食部表を各クラスに掲示する
	実施内容	食材回覧を7月～11月まで実施し、その中で可食部表と照らし合わせながら、自分たちは野菜のどの部分を食べているのかを考えた。 〈食育講座内容〉 3歳児…野菜の可食部 4・5歳児…3食食品群
結果・参加者の反応や様子		・3歳児は普段スーパーなどの店頭で見ている野菜の可食部は知っていたが、土の中の野菜はわからない様子だった。 ・4・5歳児は野菜の栽培や昨年度の食育講座で見ていた「やさいのおなか」、食材回覧で知った知識が積み重なっている姿があり、自信をもって質問に答えていた。 ・実や葉を食べている野菜はわかりやすいようだが、茎や根、地下茎を食べているものは馴染みが少ない野菜もあり、難しい様子だった。 ・その日の給食を食べながら、「これは何色の食品群だよね」と話しながら食べる姿があった。 ・「熱や力になるものは～♪」と食育の歌を思い出しながら三食食品群の分類をした。緑や赤はわかりやすいようだったが、黄色のものは難しい様子だった。
評価・今後の課題		・食育講座では話を聞くだけでなく、自分で食品のカードを貼ることで興味や関心を持って意欲的に参加していた。 ・昨年度は「栄養のうた」の歌詞を各クラスに掲示して頻繁に歌っていたが、今年度は可食部の紹介に焦点を当てすぎてしまい、3食食品群を忘れてしまった様子もあったので、継続することが大切だと気付き、今後は両方を意識して取り組んでいきたい。
備考		

野菜の可食部について

食材回覧の野菜と野菜の可食部表を照らし合わせながら考えています。

「熱や力になるものは～♪」と食育の歌を思い出しながら三食食品群の分類をしていました。緑や赤はわかりやすいようでしたが黄色のものは難しい様子でした。

大根は土の中～！

施設名	常盤北保育園	電話	048-833-8728
住所	さいたま市浦和区針ヶ谷４－１－１		

事例４０	タイトル	食育集会 「知りたい！いろんな切り方」
目指す姿（大きな目標）		食育集会を通して、食への興味を深め、食べることへの意欲に繋げる。
当日のねらい（小さな目標）		実際の調理過程を見ながら、野菜の様々な切り方を知る。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・(3歳児) (4歳児) ・(5歳児) 保護者 ・ その他（ ）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・(保育士)・ 栄養士 ・(調理師)・ 調理員 ・ その他（ ）
	日時	令和7年10月 30 日（木）
	場所	ホール
	資料・教材	大根、まな板、包丁、すりおろし器 画用紙に大根を切った過程をまとめたものと、画用紙製の大きな大根をホワイトボードに掲示したもの
	実施内容	給食室の職員が大根 1 本を全て使い、実際に様々な切り方をして見せ、切ったものをトレイに並べて間近で見られるようにしました。桂剥き、輪切り、半月切り、いちょう切り、拍子木切り、みじん切り、すりおろしと、皮を剥くところから、最後はすりおろすところまで行い、保育者が一過程毎に切り方の名称を伝えたり、使用した調理器具の紹介をしたりしながら進めていきました。集会後は、その時に使用した資料や当日の様子を写真等でまとめて掲示し、園全体や保護者と共有できるようにしました。
結果・参加者の反応や様子		子どもたちは、実際に目の前で給食室の職員が大根を切っている姿に、釘付けな様子で、大根丸ごと 1 本が様々な形に変化していく過程を興味深く見ていました。保育者が、切られたものの形を紹介すると、「パイナップルみたい」「お月様みたい」と、知っているものに例えて口にする姿がありました。切られたものをトレイに並べて間近に持って行くと、トレイに顔を近付け、匂いを嗅いでみたり、触れて感触を確かめたりする様子がありました。また集会後、給食の時間に、集会で知った切り方の野菜を見つけて「さっき切っていた形だ」と、嬉しそうに伝える姿もありました。その後も、当日の様子の掲示物を見て、保護者と話す様子も見られています。
評価・今後の課題		実際の野菜を使って、様々な切り方を伝えることにより、より一層、食へ親しみを持ち食べることの意欲へと繋がっていきました。また、毎日食べている給食が、給食室でどのように作られているのかを知るきっかけにもなりました。
備考		

施設名	さいたま市立東仲町保育園	電話	048-885-9101
住所	さいたま市浦和区東仲町２８－１６		

事例４１	タイトル	どうやってお米ができるのかな？
目指す姿（大きな目標）		食材への興味を広げ、楽しんで食べる。
当日のねらい（小さな目標）		お米や小麦ができるまでの過程を知り、興味をもつ
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ 3歳児 ・(4歳児)・(5歳児)・ 保護者 ・ その他（ ）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・(保育士)・ 栄養士 ・(調理師)・ 調理員 ・ その他（ ）
	日時	令和7年 9月24日 （火）
	場所	ホール
	資料・教材	お米の稲穂、小麦の稲穂の布製模型
	実施内容	・稲穂の布製模型、玄米・小麦のぬいぐるみ模型を使用し、実際に食べられるようになるまでの過程を調理師より説明。また、それぞれの部位の名前紹介。 ・小麦粉からできる製品にどんなものがあるかの話。
結果・参加者の反応や様子		普段自分たちが食べている白米がそのまま収穫できるわけではなく、白米になるまでに収穫、脱穀、もみすり、精米といった過程を経ないといけないことを知り、驚いている児もいれば知っている児もおり、思っていることを口にしながら楽しんで参加していた。白米になるまでの工程は難しい名前がついているが、ぬいぐるみの模型を使用して、玄米から白米に変わる様子を分かりやすく可視化することによって、子どもたちの理解も深まった様子が見受けられた。 お米だけでなく小麦の話も一緒に行い、給食のメニューとしても出てくる身近なうどん、スパゲティー、パンが同じ小麦粉からできているということを知る機会となった。その後の給食の中で、小麦粉の話題が自然とあがり「パンとスパゲティーって同じものからできているんだって」と不思議そうに話をする様子があり、食への興味の広がりをみることができた。
評価・今後の課題		白米、小麦共に主食としてとても身近な食品であるが、なかなかできるまでの過程を知る機会が少ないものなので、子どもたちに紹介することができ、良いきっかけとなった。今回は布製の模型を使用しての紹介で分かりやすさはあったものの、本物も一緒に見せることができたらもっと良かったのではないかと考える。また、話をするだけでなく、子どもたちが参加するクイズ等の形式を取り入れ、より楽しく集会を進められるように工夫していきたい。
備考		

どうやってお米ができるのかな？

９月２４日に食育集会がありました。お給食の先生にお米ができるまでのお話をしてもらいましたよ！分かりやすい手作りの稲穂や玄米の模型を使ってお話ししてくださったので、子どもたちもよく聞いていました。

施設名	針ヶ谷保育園	電話	048−824-3746
住所	さいたま市浦和区針ヶ谷１丁目４−３		

事例 ４２	タイトル	食育集会～給食ができるまで～
目指す姿（大きな目標）		食への興味、関心を深め、食べる意欲に繋げる。
当日のねらい（小さな目標）		・給食が作られる過程を知り、作り手への感謝や食べてみようという思いを感じる。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・(3歳児) (4歳児) ・(5歳児) ・ 保護者 ・ その他（ ）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・(保育士) ・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（ ）
	日時	令和7年 12 月 22 日（月）
	場所	ホール
	資料・教材	スクリーン、プロジェクター、iPad、マイク、ワイアレスマイク、スピーカー、延長コード、巧技台 3 段、ゴザ 3 本、子どもイス、クイズの用紙
	実施内容	・事前に集会当日のメニュー(野菜わん)の調理過程を撮影する。 ・集会ではプロジェクターでスクリーンに映像を投影し、保育士が説明をしながら調理の様子を見る。 ・冬至のメニュー（かぼちゃのいとこ煮）が入るため、冬至についてクイズ形式で説明をする。
結果・参加者の反応や様子		・調理の過程の中で使われている野菜の種類や量の多さに「ほうれん草いっぱい～！」「大根大きいね。」「こんなにいっぱい入れるんだね。」などが聞かれた。野菜を給食職員が皆で切っているのを見て「すごーい！」「はやい！」など話したり、同じように手で切っているように真似したりする姿があった。 ・冬至についてはイラストや写真を見せながらの 2 択クイズにしたが、子どもたちにも内容が分かりやすく楽しんで参加できていた。 ・映像のメニューが今日この後の給食で出ることを知り、楽しみにしている様子が伺えた。 ・給食の時間になると「あ、これさっき見たやつだよね。」との声が上がり、以前よりもよく食べられていて、用意されていたおかわりも全てなくなっていた。 ・クラス内で大根や人参を見て「あ！これ入ってたやつ！」など野菜に興味を持つ様子が伺えた。
評価・今後の課題		職員で話し合いメニューを決め、それを撮影し上映したが、給食室の都合で撮影に入れたのが 12 月だった。園行事もある月だったため、もう少し前に集会ができたらよかった。集会時間は 20 分程度にしたため子どもたちも集中してよく見ていた。また、他にもいくつかメニューが挙がっていたため、同様に撮影上映をし意欲につながればと思う。
備考		

施設名	さいたま市立大東保育園	電話	048-887-6168
住所	さいたま市浦和区大東２－１８－７		

事例４３	タイトル	見て・触って楽しもう！
目指す姿（大きな目標）		給食に出る食材を各クラス回覧し、実際に触れる機会をもち食への興味関心を広げる。
当日のねらい（小さな目標）		・実物を見る、触る、匂うことにより、食材に親しみをもつ。 ・実際に触れた食材が給食に出ることで、食べる意欲を高める。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・（1歳児）・（2歳児）・（3歳児）・（4歳児）・（5歳児）・ 保護者 ・ その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・（保育士）・ 栄養士 ・（調理師） 調理員 ・ その他（　　）
	日時	毎月19日
	場所	各保育室
	資料・教材	当日の給食にでる食材の端切れ
	実施内容	・食材回覧を実施する日の給食にでる食材の端切れをトレーにのせ、未満児・以上児それぞれに回覧する。 ・食材回覧は各クラスにて実施し、保育者が子ども達に見せながら実際に触る、匂う経験が出来るようにする。
結果・参加者の反応や様子		・食材を実際に触り感触を楽しんだり、顔を近づけて匂いを嗅いだりと食材に興味を示す姿が印象的であった。 ・実際に触れた食材を給食の中に見つけると、発見を楽しんだり興味を持って食べてみようとする姿がみられた。
評価・今後の課題		・食材を通して「見る・触る・匂いを嗅ぐ」といった感覚を十分に味わい、食への興味関心へとつなげる経験となった。 ・毎月食材回覧を実施することにより、食材を手に取るだけでなく、匂いや感触の違いに気がつき自分の言葉で伝えようとする姿が増えていったことから、継続して実施することの大切さを感じた。
備考		

施設名	さいたま市立南浦和保育園	電話	048-861-6954
住所	さいたま市南区根岸 2-19-3		

事例 ４４	タイトル	魚の解体ショー
目指す姿（大きな目標）		魚の体のつくりを知り、自然の恵みに感謝して食べ物を大切にしようとする
当日のねらい（小さな目標）		・魚の体のつくりを間近で見たり、においを嗅いだりして食材への興味を持つ ・魚の命をいただいていることに気付く
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ 3歳児 ・ 4歳児 ・（5歳児）・ 保護者 ・ その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・（保育士）・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・（その他）（美楽食 BOX）
	日時	令和7年 10 月 31 日（金）
	場所	南浦和保育園ホール（5 歳児室）
	資料・教材	愛媛県宇和島産養殖ブリ 1 本
	実施内容	・辻、文蔵保育園の年長児も来園 ・美楽食 BOX さんによるブリの解体ショーを実施 ・ブリの心臓やエラ、カシラ、身などを見たり触れたりにおいを嗅いだりした
結果・参加者の反応や様子		・ブリが解体されていく様子を興味深く見学する姿が見られた。 ・美楽食 BOX さんによる説明（魚の産地やブリを養殖している漁港の方の話）をよく聞いていた。 ・「心臓が小さい」「感触がやわらかい」など実際に見たり触れたりすることでしか分からないことに気づく様子があった。 ・興味を持って自分から触り「いいにおい」と子どもが感じた言葉を発していた。また、見た目に怖さを感じて嫌がる子もおり、反応が様々だった。 ・解体ショーの終わりに「ブリのえさにしているもの（ブドウの皮とミカンの皮）は何だったか」と司会が質問すると、子どもたちから答えられていた。 ・午後のおやつでブリを竜田揚げと塩焼きにしてもらうと、喜んで食べる姿が見られた。「美味しいね」「もっと食べたいな」など保育者や友だちとやりとりしながら進んで食べる様子があった。
評価・今後の課題		・魚の体のつくりを知り、食材への興味、関心を得ることができた。 ・実体験でしか味わうことのできない魚の骨を切る音、におい、感触などに気づくことができた。 ・今回の経験をもとに、魚以外の食材にも関心を持ったり大切にしたりする気持ちを、食育を通して伝え続けていくことが今後の課題である。
備考		

おさかな解体ショー

R7.10.31

美楽食 BOX（みらくるぼっくす）さんによるブリの解体ショーを南浦和保育園ホールにて行いました。当日は近隣園の文蔵保育園と辻保育園の年長さんも招いて一緒に楽しみました。

施設名	さいたま市立文蔵保育園	電話	048 - 863 - 1037
住所	南区文蔵３―５－17		

事例４５	タイトル	芋ほりをして焼き芋食べよう！
目指す姿（大きな目標）		野菜の栽培に興味や関心を持ち、食べることへの意欲を高める
当日のねらい（小さな目標）		自分で収穫したさつまいもを焼き芋にする工程を体験し、みんなで食べる喜びを味わう
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ 3歳児 ・ 4歳児 ・ (5歳児) ・ 保護者 ・ その他（ ）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ (保育士) ・ 栄養士 ・ 調理師 (調理員) ・ その他（ ）
	日時	令和7年 11 月
	場所	園庭・ベランダ
	資料・教材	
	実施内容	・春にさつま芋の苗を植えて収穫時期がきたので、子ども達と一緒に芋づるを切る ・1 週間空けてから芋ほりをする ・芋を新聞紙で巻いて 2 週間寝かせる ・焼き芋にしてもらう前日に芋を洗う ・焼き芋当日の朝、芋を水で濡らしてからアルミホイルを二重に巻き給食室へ持っていき焼き芋を作ってもらう
結果・参加者の反応や様子		春に植えたさつま芋の苗が収穫時期にきたので、芋づるを切る所から子どもたちと行う。「なんで切るの？」という質問があり、「収穫しやすいこと」「さつま芋を甘くするため」と話しをすると感心していた。次々と大小のさつま芋の収穫ができ、段ボール 2 箱分ぐらいになった。「どうやって食べる？」と子どもたちに尋ねると「スイートポテト！」「焼き芋！」という意見が出た。2 週間寝かせてから食べることを話しすると「甘くなるならいいよ」と納得していた。芋を洗ってからアルミホイルに巻いて準備を一緒に行うと「焼き芋を作るのは大変だね」と色々な工程があることを知ることが出来た。おやつにできたての焼き芋を食べるがオレンジ色の芋（ハロウィンスイート）と普段よく食べる芋（紅はるか）の味比べをして「美味しい！味が違う！」と感想を話していた。普段、さつま芋が苦手と言っていた子どもも「少し食べてみる」と自分から進んで食べる姿が見られた。
評価・今後の課題		自園はじゃがいもほりを行うが天候に左右されて実施出来ない事もあるのでさつま芋を植えた。さつま芋を収穫して焼き芋を作って食べるまでの工程を子どもたちとやってみてやっと食べられた時の表情がみんな嬉しそうだった。来年もまたさつま芋を植えるのか、他の野菜の栽培を行うのか等、新年度に入る前に子どもたちと話し合いをして計画的に進めていき栽培にも興味を持ち、食べる意欲を高めていきたい。
備考		

施設名	さいたま市立白幡保育園	電話	048(863)8105
住所	さいたま市南区白幡３－１－２		

事例 ４６	タイトル	職員劇「えいようせんたい しょくれんじゃー」
目指す姿（大きな目標）		食に対する興味関心を高める
当日のねらい（小さな目標）		3 色食品群がある事を知り、バランスよく食べようとする。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・(1歳児)・(2歳児)・(3歳児)・(4歳児)・(5歳児)・ 保護者 ・ その他（ ）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・(保育士)・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（ ）
	日時	令和7年 11 月 11 日
	場所	ホール
	資料・教材	（参考資料） 絵本「えいようせんたい しょくレンジャー」
	実施内容	・食べ物には 3 色食品群がある事と、どの食べ物がどの色のグループに当てはまるのかを 3～5 歳児は事前に遊びの中で自然と学べる機会を作る。 ・元気な体を作るために 3 つのグループの食品をバランスよく食べる必要があることを職員劇で伝える。
結果・参加者の反応や様子		・職員がヒーローに扮した姿に喜び、劇に引き込まれて観賞する様子が見られた。 ・事前に「3色に分けてみよう」と遊んでいたので3色を覚えていて劇の中での声掛けに「赤！」などと答える姿があった。 ・集会時間が長くはなかったので1．2歳児も最後まで見ることができていた。 ・給食を食べながら3色を意識する姿がある。 ・劇中で使った絵を見ながら「これは黄」などと子ども同士で話していたり、「3色に分けてみよう」で遊んでいたり、興味が続いている。
評価・今後の課題		・職員劇という形で伝えることで楽しく見ることができていた。職員劇と遊びの二つの取り組みをすることで子どもたちの印象に残り、改めて話す時にも思い出すことができている。 ・3色に分けられることを理解した子は多いが、苦手な物も食べようとするまでにはいかない子もいるので、繰り返し伝えていきたい。
備考		

施設名	大谷場保育園	電話	048(885)8992
住所	さいたま市南区南浦和３－36-11		

自励４７	タイトル	ぶりの解体ショー
目指す姿（大きな目標）		魚について興味・関心をもつ （魚の体のしくみを知る、命を頂いていることを知る）
当日のねらい（小さな目標）		ぶりの体を知り、その日のおやつを楽しみにする
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ 3歳児 ・(4歳児) (5歳児) (保護者) (その他(他園))
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・(保育士)・ 栄養士 ・(調理師)・ 調理員 ・ その他（ ）
	日時	令和7年11月26日(水)
	場所	ホール
	資料・教材	ぶり、ブルーシート、新聞紙、雑巾、ボウル、プロジェクター、ビデオカメラ
	実施内容	・ぶりの栄養、出世魚であることなどについて話をして掲示した。 ・集会への期待を高める為に、ぶりを丸ごと1匹だしておき、見えるようにした。 ・子どもたちに見えるよう少しずつ解体し、部位ごとにトレイに置き、近くで順番に見た。 ・調理師の手元をプロジェクターで写し、大画面で見えるようにした。 ・捌いたぶりは、竜田揚げに調理しておやつで提供した。
結果・参加者の反応や様子		・大画面で見た為、魚まるごと一匹の体の造りや解体時に血がでるなど、子どもたちは臨場感を感じながら真剣に見ていた。 ・色々な部位を長い時間をかけて、細かく観察している姿が見られた。 ・感想を聞くと「魚の体の中が見られたよ」「血が沢山でて痛そう」などがでていた。「血が出ちゃったけど、その命を頂いているんだよ」と伝えると、「そうだね」と納得して頷いていた。 ・その日のおやつは「今日、切った魚だね」と言いながら、喜んで食べる様子がみられた。 ・後日、鮨屋ごっこや砂場で魚釣りゲームをするなど、魚に関する遊びの姿がみられた。
評価・今後の課題		1匹の魚を目の前で解体される様子を見る事で魚の体のしくみや過程を知り、興味・関心が高まった。また、食べる事への意欲や遊びにつなげることができた。 解体されている様子をみながら様々な感情を抱き、調理してもらう感謝の気持ちや、食材の魚を物ではなく命として捉え、大切にするものだとわかり「いただきます」の意味を知らせることができた。 今後も、様々なアプローチをしながら食事の楽しさや興味・関心を育んでいきたい。
備考		

施設名	さいたま市　辻保育園	電話	0488643385
住所	さいたま市南区辻３－１０－１５		

事例４８	**タイトル**	給食をバイキングで楽しもう
目指す姿（大きな目標）		自分で配膳する楽しさから食べる意欲を高める
当日のねらい（小さな目標）		自分で食べる量を選んで、楽しく食べる
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ 3歳児 ・ 4歳児 ・ 5歳児 ・ 保護者 ・ その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ 保育士 ・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（　　）
	日時	令和7年 7 月頃～定期的に継続中
	場所	保育室内
	資料・教材	トレー・鍋・トング・お玉など
	実施内容	・毎月の献立の中から配膳しやすいメニューを選び、給食室より大きなトレーや鍋に入れて提供してもらう。子ども自身がトングやお玉を使って盛り付ける。保育者がトングやお玉の使い方を説明し、実践して見せてから子どもたちが取り組んだ。 ・キッシュ、鶏肉の竜田揚げ、かりん揚げなど取り分けしやすい 1 品から始め、慣れてきたらカレーや汁物、副菜の献立も増やし行った。
結果・参加者の反応や様子		・子ども達が自分で量や数を選びながら楽しんで取りに来ていた。 ・初めは経験がなく戸惑う様子が見られたが、保育者に手伝ってもらいながら盛り付けを行った。 ・バイキングをしている所を調理師も見学し、献立の提供の仕方を工夫していった。 ・初めはトングでも取りやすい献立を選んだ。かりん揚げから始め、キッシュ、カレーや汁物など様々なバイキングの種類を増やしていった。1 品ではなく 2，3 品とバイキングの種類を増やしている。 ・保護者へも写真を添えて掲示し、バイキングの様子を発信した。
評価・今後の課題		・4 歳児は年上の子の様子を見ながら真似をして配膳し、年長児は就学に向けて給食の配膳の経験ができた。 ・自分達で盛り付ける楽しさと、自分で食べる量を調整して食べる事で意欲が高まり、完食する姿が増えた。さらにおかわりを欲しがる子も増えた。 ・食べる意欲が増した事で、食べ残しが減っていった。今後は全ての献立をバイキング出来るように工夫していきたい。
備考		

施設名	さいたま市立曲本保育園	電話	048-864-3384
住所	さいたま市南区曲本 4-5-7		

事例 ４９	タイトル	早寝早起き朝ごはん集会
目指す姿（大きな目標）		早寝早起きや朝ごはんを食べて生活リズムを整えるなど規則正しい生活の大切さを知る。
当日のねらい（小さな目標）		元気に過ごすために大切なことを聞いたり、考えたりする。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・(2歳児)・(3歳児)・(4歳児)(5歳児)・ 保護者 ・ その他（ ）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・(保育士)・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（ ）
	日時	令和7年7月 25 日
	場所	ホール
	資料・教材	・プロジェクター ・タブレット ・「早寝早起き朝ごはん」全国協議会の絵本
	実施内容	・「にこにこげんきのおまじない」の絵本を読む。 ・絵本の内容の振り返りクイズをする。 ・歌「早ね早おき朝ごはん」を手遊びしながら歌う。 ・早寝早起き朝ごはんについての掲示をし、振り返りシールを親子で貼る。 ・「早寝早起き朝ごはん」全国協議会の絵本を自由に閲覧できる場所を設置する。 ・集会の内容について園だよりで配信する。
結果・参加者の反応や様子		・掲示に対して親子で内容を確認しながらシールを貼っていた。 ・振り返りクイズをインタビュー形式で行ったことで参加型になり、子どもから興味を持ち、問いに対して真剣に考えて答える姿があった。 ・繰り返しの多い歌を選曲したことで、集会後も歌を口ずさむ姿が見られた。
評価・今後の課題		・親子でシール等を貼ったことで、子どもだけでなく、保護者も早寝早起き朝ごはんの大切さを知ることができた。 ・集会後には、早寝早起き朝ごはんについて意識を持ち、子ども自身で取り組む姿があった。一方で、保護者の捉え方や生活リズムの多様化により、継続して行うことの難しさもある。 ・集会形式ではなく、日常的に食育について触れることができるように、各クラスの食育掲示を整えることが課題である。
備考		実際に使用した「早寝早起き朝ごはん」全国協議会の絵本 ※「早寝早起き朝ごはん」全国協議会の絵本は送料のみで配送してもらえるが、時間がかかるため発注時期を考慮する。

施設名	さいたま市立大谷口保育園	電話	048-887-4989
住所	さいたま市南区大谷口１０８９－１		

事例５０	タイトル	野菜の浮き沈み実験
目指す姿（大きな目標）		野菜への興味関心を持ち、楽しく食事をする
当日のねらい（小さな目標）		野菜の育ちや仕組みを知る
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ 3歳児 ・ 4歳児 ・（5歳児）・ 保護者 ・ その他（ ）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・（保育士）・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（ ）
	日時	令和 7 年 8 月 22 日 10:00～10:30
	場所	5 歳児保育室
	資料・教材	野菜、野菜パネル、水を入れる容器
	実施内容	・子どもたちに使用する野菜を見ずに触ってもらい、野菜当てクイズを行う。 ・水に浮くものと沈むものを予想してもらい、水を張った容器に野菜を実際に入れてみる。 ・出た結果をもとに浮くものと沈むもののそれぞれの共通点を子どもたちに考えてもらう。 ・畑の絵の野菜パネルを使いながら、土の上でできるものは水に浮き、土の下でできるものは沈むことを説明する。 ・実験で使った野菜を使って、野菜スタンプを行う。 ・実験の結果や様子を掲示し、保護者と一緒に見て楽しむ。
結果・参加者の反応や様子		・実験を始める前に野菜当てクイズを行ったことで、実際に野菜に触り、「大きい」「重い」「ザラザラしてる」等感じたことを共有する姿が見られた。 ・水に入れる時には思い思いに予想を口にしながら、結果に対して強い関心を示していた。 ・結果をもとに共通点を意欲的に考える姿があり、「土がついているものは沈むのかな」「中に穴が開いているものは浮いてる気がする」「土に埋まっていたものは沈んでる」等様々な意見が挙がった。 ・野菜スタンプでは野菜の断面の形や大きさの違いに気づく姿が見られた。野菜への関心が高まり、楽しみながら活動に参加していた。 ・実験結果をイラストで示したり、野菜スタンプで描いた断面から考える野菜当てクイズを掲示したりしたことで、親子で楽しみながら掲示を見る姿が見られた。
評価・今後の課題		園生活の中で実際に育てた経験のある野菜を使用したことで、野菜を身近に感じながら活動に参加していた。また、野菜を育てた経験をもとに、実験結果を予想する姿が見られた。これまで野菜の栽培や食に関する取り組みを継続的に行ってきたことで、野菜や食への関心や意識が高まっているように感じた。 今後も、子どもたちが楽しみながら参加できる食育活動を取り入れ、食に関心が持てるようにしていきたい。また、掲示等を通して家庭との連携も大切にし、保育園だけではなく家庭でも食育を意識してもらえるように取り組んでいく。
備考		

大谷口保育園　食育取組事例写真

施設名	武蔵浦和保育園	電話	048(837)3411
住所	さいたま市南区鹿手袋 4-1-12		

事例 ５１	タイトル	第３回食育集会(給食室潜入調査)
目指す姿（大きな目標）		食育活動や栽培を通し、食材・栄養・マナーへの興味、関心に繋げる。
当日のねらい（小さな目標）		・給食室の調理工程や機材の使い方を楽しみながら知る。
方法	対象者（〇で囲む）	(0歳児) (1歳児) ・(2歳児) (3歳児) (4歳児) ・(5歳児) 保護者 ・ その他（ ）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・(保育士) 栄養士 (調理師) ・ 調理員 ・ その他（ ）
	日時	令和7年 11 月 19 日 10:15～10:55
	場所	ホール
	資料・教材	イラストボード 給食室内を撮影した写真 パソコン スクリーン プロジェクター
	実施内容	・事前に職員が給食室内に入って調理工程や機材の写真を『潜入調査』として撮った。 ・当日、職員がスパイに扮し、潜入調査の内容を子どもたちに報告した。その後、調理師が登場し作業工程や機材(スチームコンベクションや回転鍋など)の詳しい説明をした。 ・毎回歌っている『えいようの歌』をイラストボードを見ながら歌った。 ・集会後、当日の様子と『食育いいね！掲示板』を掲示し『いいね』シールを親子で貼ってもらった。
結果・参加者の反応や様子		・担当がスパイに扮した姿で登場すると盛り上がり、調理工程や機材の説明をワクワクした気持ちでよく聞いていた。 ・カレーの食材がスライドに映った場面では「これは何だ？」とスパイが問いかけると「たまねぎだよ」と答え、スパイとの会話を楽しんでいた。 ・後から調理師による丁寧な説明を聞き、より詳しく調理工程や機材について知ることができた。 ・スパイが説明した切干大根がその日の給食に出ると「さっきでたよね」と食材に興味を持ち、自分から食べようとする姿が見られた。 ・子どもたちが『えいようの歌』を大きな声で歌っており、普段から廊下や保育室に歌詞を貼ってある為、馴染みがある歌となっていることに気づいた。
評価・今後の課題		・給食室への潜入捜査と称して、担当職員がスパイに扮し楽しい雰囲気を作ったことで、子どもがスライドに注目するきっかけとなった。 ・『えいようの歌』を日頃から歌い、歌詞を身近な所に掲示している為、歌が定着している。子どもが歌いながら自然に4色分けを知っていけるとよい。 ・子どもや保護者が食への興味、関心を高められるようにするにはどの様な工夫が必要か、改めて職員間で話し合い、食育活動を行っていきたい。
備考		

エージェントＯと給食室潜入調査をしたエージェントＫが現れた！

エージェントOとエージェントKの掛け合いでほうこくがすすむ。

途中で調理師さん登場！

調理師さんが詳しく工程や機材の説明をしてくれました。

『えいようの歌』をイラストボードを見ながら毎回歌っています。

『食育いいね！掲示板』に親子でシールを貼ってもらいました。

施設名	尾間木保育園	電話	048-873-1103
住所	さいたま市緑区中尾 1432-5		

事例 52	タイトル	野菜の皮で色水遊びを楽しみながら食に興味を持つ
目指す姿（大きな目標）		野菜の皮に触れ、食への興味関心を持つ
当日のねらい（小さな目標）		食材を知ると共に、様々な経験から興味関心に繋げる
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ 3歳児 ・ 4歳児 ・ (5歳児) ・ 保護者 ・ その他（ ）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ (保育士) ・ 栄養士 ・ (調理師) ・ 調理員 ・ その他（ ）
	日時	令和7年 11 月 27 日(木)9 時 30 分～11 時 00 分
	場所	5 歳児室(ホール)
	資料・教材	野菜の皮(大根、玉ねぎ、じゃが芋、さつま芋、人参)、ほうれん草、紫キャベツ、透明のプラスチックコップ、調理器具
	実施内容	・給食の調理の際出る野菜の皮に興味が持てるよう、事前に年長の保育室に干す。 ・野菜当てクイズをする。 ・野菜の皮を見たり、触れたり匂いを嗅いでみる。 ・色水遊びを楽しむ。 ・遊び以外の野菜の利用の仕方について話をする。 ・他クラスに野菜の皮や色水を見せに行く。
結果・参加者の反応や様子		・クイズの中でほうれん草を小松菜と言っている児がいたため、茎の色の違いを伝えると理解し、日常の食材紹介でも区別がつくようになった。 ・色水あそびでは、色だけでなく匂いも感じ友だちと嗅ぎ合う様子の中で、気付きを伝え合う姿があった。 ・遊び以外に野菜の皮の利用方法を聞くと「畑の肥料にしている」と子ども達からあがったため、皆で話し合いを進めたところ、野菜の栄養は肥料、体の栄養は「食べる事」と確認し合うことができた。次の日からも図鑑で見た植物の栄養は何かを考えたり、食事をバランスよく食べようとする姿が見られたりした。 ・子どもから集会が楽しかったという声や、後日家庭で野菜の皮を使って色水遊びを楽しんだ報告を受けた。
評価・今後の課題		この活動をきっかけに食材に触れるだけでない方法でも、食への興味関心を高める機会にできた。また、食事中に食べ物について子どもからの質問が増える様子も感じられるようになった。 今後、更に食への興味関心が持てるように絵本や図鑑の活用や、他のクラスへも活動を広げ、各歳児に合わせた食への興味関心の向上へ繋げていきたい。
備考		

施設名	原山保育園	電話	048-885-7403
住所	さいたま市緑区原山 1-7-2		

事例	タイトル	食育レンジャーと一緒に、バランスよく食べることの大切さを知ろう！
５３		
目指す姿（大きな目標）		食材に対する興味関心を深め、食べる意欲へと繋げていく。
当日のねらい（小さな目標）		劇を通して、子どもたちに三食食品群をバランスよく食べることや、食事前に手を洗うことの大切さを伝えていく。
方法	対象者（〇で囲む）	(0歳児)・(1歳児)・(2歳児)・(3歳児)・(4歳児)・(5歳児)・保護者 ・ その他（ ）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・(保育士)・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（ ）
	日時	令和7年9月25日
	場所	ホール
	資料・教材	パネルシアター、絵本「えいようせんたい　しょくレンジャー」
	実施内容	子どもたちにバランスよく食べて欲しいという思いから、集会の中で劇を行い、三色食品群の食べ物のそれぞれの働きや食事前に手を洗うことの大切さを伝えた。劇の内容は、保育園で好き嫌いが多い子どもが体調を崩し、そこに食育レンジャーが栄養のある食材を持って助けに来るという話であった。劇が終わった後に、パネルシアターを使って三食食品群についてクイズをして内容を再度伝えた。また、食育レンジャーのぬりえも作成した。
結果・参加者の反応や様子		保育士が食育レンジャーに変身して登場すると、「赤と黄色と緑だ」と色に注目している姿が多くあった。劇の中で主人公が手を洗わずに食事をしているところを見て「手にバイキンが付いているよ！」「洗わないとお腹が痛くなっちゃうよ」などと言い、改めて手を洗うことの大切さを一緒に考える機会を作ることができた。食育レンジャーが赤・黄・緑の食材を見せながらそれぞれの働きを伝えたので、最後にパネルシアタ―を使ってクイズをすると積極的に答える姿がみられ、内容をよく理解しているようであった。 また、集会が終わった後に食育レンジャーのぬりえを作ると、年長児を中心に色塗りを楽しみながら食べ物の働きについて関心を持っていた。2歳児クラスでは「食育レンジャーが話していたから野菜を食べてみるね」という声があり、苦手な食材を口にしてみようとする姿があった。
評価・今後の課題		集会が終わったあと、食育レンジャーになりきる子や、「また来てくれるかな」と期待する姿があり、食に関心や食材の働きを考える機会となった。また、食育レンジャーのぬりえを作ったことで、継続的に興味関心を持てるようにしてきた。引き続き、保護者や子どもたちへの発信を行い、子どもたちが楽しみながら食事が出来るように活動していきたい。
備考		

施設名	三室保育園	電話	048-873-7877
住所	さいたま市緑区三室 1629-6		

事例 ５４	タイトル	給食室を知ろう
目指す姿（大きな目標）		・給食を作っている方、関わっている方の存在を知る ・食事の大切さ、料理の工程を知る
当日のねらい（小さな目標）		インタビューやクイズ、カレー作りの動画視聴を通して給食に興味を持ち、楽しみながら給食室の方々の存在を知る。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・(3歳児)・(4歳児)・(5歳児)・ 保護者 ・ その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・(保育士)・栄養士 ・(調理師)・調理員 ・ その他（　　）
	日時	令和7年 12 月 8 日（月）**10:00**～10:30　17 日（水）10:20～11:00
	場所	ホール
	資料・教材	・比較用食具　　・給食室サイズ食具レプリカ ・パワーポイント　　・給食室クイズ
	実施内容	・集会前に給食室の方への質問を各クラスでまとめ、インタビューをする時間を設けた。 ・パワーポイントでは、カレーを調理している様子を見た。給食への興味関心が広がるように具材の量や、料理の工程を動画にして紹介した。 ・鍋の大きさや何人分作れるかなど、クイズ形式にしながら給食室の方と一緒に考える時間を作った。
結果・参加者の反応や様子		・食育集会の中で、給食室の方と話をするきっかけ作りとして、子どもからのインタビューやクイズに答えてもらった。質問に答えると、子どもたちから笑顔が見られた。 ・調理器具の紹介では、家庭用と大きさを比較したことで驚いた反応があった。動画視聴時に「お鍋に野菜がたくさん入っているから、大きなしゃもじで混ぜるんだね」と声が聞かれた。 ・カレーの作り方を動画で見せながら話をした。野菜をたくさん使用することや、作る過程で色々な工程があることを知り「作るのって大変だね」「残さず食べないとね」など子どもたちから気づきがあった。完食する、こぼさず食べようとする、苦手な物を食べようとするなど食事に向かう様子に変化が見られた。 ・子どもから給食室の方に「ありがとう」と伝えたり、下膳の時に話しかけたりしている姿が以前より多く見られるようになった。
評価・今後の課題		・物を比較したり、動画を見ながら説明したりすることで、子どもたちに伝わりやすく良かった。 ・短い時間ではあっても、給食室の方と関わったことで身近な存在となり、より「おいしい」「食べてみよう」という気持ちに繋がっていると感じる。 ・給食室の方へ子どもたちから「おいしかった」など、声を掛けられるような関わりが更に持てるよう考えていきたいと思う。
備考		

施設名	さいたま市立西町保育園	電話	048-756-4632
住所	さいたま市岩槻区西町 3-1-24		

事例５５	タイトル	食育サイコロチャレンジ
目指す姿（大きな目標）		食育ピクトグラムを活用しながら興味関心を持って基本的な食育活動に取り組み意識を高める
当日のねらい（小さな目標）		サイコロを使って楽しみながら、目標をもって食育活動に参加し取り組む
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ 3歳児 ・ 4歳児 （5歳児）・ 保護者 ・ その他（ ）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・（保育士）・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（ ）
	日時	令和7年 11月 26 日
	場所	5 歳児保育室
	資料・教材	農林水産省　食育ピクトグラム
	実施内容	・食育ピクトグラムから、子どもが実践できそうな 6 項目をサイコロの目に貼り付ける。子どもが振って出た目の項目をその日の目標にする。目標に取り組み、実践できた時には『できたよカード』を自分の台紙に貼る。台紙の枠にすべてカードが貼れた時には『おめでとうシール』を貼ることができる。
結果・参加者の反応や様子		・ピクトグラムの活用により、視覚から子どもたちの興味や理解に繋がりやすかった。 ・サイコロを転がす楽しさから自分の目標を決めて意欲的に取り組む姿が見られた。 ・自分の目標に向かって実践し、できたことが喜びや自信に繋がり、『おめでとうシール』を目指して日々、継続して取り組む子どもが多く見られる。
評価・今後の課題		・意欲的に取り組む活動となり、食育活動への関心が高まったと感じる。 ・子どもたちの実践や姿を保護者に向けて発信し情報提供をして、食育や食育ピクトグラムへの関心を高めて家庭での食育活動の取り組みに繋げていきたい。 ・5 歳児の活動が定着したら、4 歳児、3 歳児へと活動を広げていきたい。
備考		

食育ピクトグラムから選んだ６項目とその目標の説明

『できたよカード』

・チャレンジ６回できると台紙が埋まり、『おめでとうシール』がもらえる

・『できたよカード』に色を塗って喜ぶ子もいる

施設名	さいたま市立　岩槻本町保育園	電話	048-756-7565
住所	埼玉県さいたま市岩槻区本町 2-5-5		

事例 ５６	タイトル	「とうもろこし」収穫体験
目指す姿（大きな目標）		旬の食材に触れ親しみをもつ
当日のねらい（小さな目標）		自分で収穫することで「とうもろこし」の生育に興味関心を高める。 「とうもろこし」の皮をむき色・形・感触を楽しみ友だちと一緒に食べる。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ 3歳児 ・ 4歳児 ・ 5歳児 ・ 保護者 ・ その他（ ）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ 保育士 ・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他（ ）
	日時	令和7年 7 月中（11 日・25 日）
	場所	中廊下～玄関ホール
	資料・教材	・段ボール箱で畑・紙コップと画用紙でとうもろこしを入れる部分を作った畝 ・模造紙の背景 ・「とうもろこし」　・ビニールシート・かご
	実施内容	①農夫役の大人が「とうもろこし」の出来や収穫手伝いのお願いを話に行く。 ②中廊下に畑を設置し、各自で「とうもろこし」を収穫 ③玄関ホールで皮むきを行う。 ④給食室前に「とうもろこし」置き場を設置し、そこへ並べて給食室の職員に収穫の報告を行う。
結果・参加者の反応や様子		・0 歳児は自分のクラスで「とうもろこし」に触れました。皮が剝がれる事に気がつくと引っ張って皮をむこうとする子もいて、ヒゲの部分のフワフワした感触にも興味津々の様子でした。 ・1 歳 2 歳は「何だろう」と様子を見ながらの参加だったが保育士と一緒に皮をむき、匂いを嗅いで感触を楽しんでいくうちに笑顔が見られるようになり、皮やヒゲを使っておままごと遊びをしていました。 ・3歳～5歳は毎年経験している為「とうもろこし」の皮むきに慣れていたが、今年度は農夫役の大人が育てる話や収穫の大変さを伝えてお願いをしたところ、各自が「任せて！」と積極的に参加してくれました。 ・以上児は幹に刺さっている「とうもろこし」をじっくり観察したり、大切そうに収穫して皮やヒゲの感触を感じ、上手にむけた自慢をしたり、おやつに出てくる調理方法を考えたりと楽しんでいました。
評価・今後の課題		調理前の野菜の様子や自分達の口に入るまでの流れを体験することができました。 自分達が「収穫した」「お手伝いした」という自信に繋がったと思います。 「とうもろこし」の畑をアレンジして利用し、「さつま芋」収穫を計画しているが他の野菜とも触れあう機会を作り、食に興味がもてるように伝えていきたい。
備考		

施設名	さいたま市立諏訪保育園	電話	048-794-1620
住所	さいたま市岩槻区諏訪２－５－１		

事例５７	タイトル	お米ができるまで
目指す姿（大きな目標）		食に関する興味関心を深める。
当日のねらい（小さな目標）		お米になるまでの変化を親子で楽しみながら知る。
方法	対象者（〇で囲む）	(0歳児)・(1歳児)・(2歳児)・(3歳児)・(4歳児)・(5歳児)・(保護者)・その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭・(保育士)・栄養士・調理師・調理員・その他（　　）
	日時	令和7年 11 月4日～11 月 14 日
	場所	テラスロビー
	資料・教材	職員が持参した稲、もみ殻、玄米、白米
	実施内容	・稲、もみ殻、玄米、白米の変化が分かるように展示する。 ・送迎時に親子で観察する。 ・匂いや感触を確かめる。 ・もみ殻を再利用する。
結果・参加者の反応や様子		・送迎時に利用するテラスロビーに展示したことで、親子で観察して会話する姿があった。 ・子どもが「あっ！これ、じいじの家にあるよ」と身近にあったことを知り、関心を深める姿があった。 ・もみ殻や玄米を手で触れ、色の違いや感触、匂いに興味を持っていた。 ・大きな布団収納袋にもみ殻を再利用してクッションを作った。クッションに座ったり、寝転んだりして全身で楽しんだ。又、「お米の服が集まると気持ちがいいね」と、もみ殻をお米の洋服に例えて表現していた。 ・降園時に子どもを抱っこして展示物を観察したり、保護者が子どもの目線になって話しかけたりする姿が見られた。
評価・今後の課題		・日常では殆ど目にする事のない稲からお米になるまでを展示したことで、「親子」や「子どもと保育士」の会話に繋がった。 ・見たり触ったりする体験型展示にすることで、見るだけの展示より興味を持っていた。 ・もみ殻を再利用することで、物の変化の楽しさを感じることができた。 ・園の畑に、もみ殻を撒き肥料として無駄なく使う予定。 ・今後も季節ならではの食材に興味が持てるようアイデアを出し合い、次年度に繋げたい。
備考		

お米ができるまでの展示をしました。

大きな布団収納袋にもみ殻を入れた、クッションを作って遊んでいます！

施設名	美幸保育園	電話	048-757-8450
住所	さいたま市岩槻区美幸町 3-18		

事例 ５８	タイトル	**夏野菜の紹介とひまわりパイのライブキッチン**
目指す姿（大きな目標）		・様々な食材に触れ、興味を持って食べようとする ・作ることを通して食への関心を高める
当日のねらい（小さな目標）		野菜の名前、色や形などを知る。ライブキッチンを体験して、食欲につなげる。
方法	対象者（〇で囲む）	0歳児 ・ 1歳児 ・ 2歳児 ・ 3歳児 ・ 4歳児 ・ (5歳児) ・ 保護者 ・ その他（　　）
	実施者（〇で囲む）	幼稚園教諭 ・ (保育士) ・ 栄養士 ・ (調理師) ・ 調理員 ・ その他（　　）
	日時	令和7年　8 月　5 日(火)
	場所	5 歳児室(ホール)
	資料・教材	はてなボックス・夏野菜(トマト・なす・きゅうり・かぼちゃ)・餃子の皮・スキムミルク・茶碗・水・フォーク・ボウル
	実施内容	・夏野菜(トマト・なす・きゅうり・かぼちゃ)の紹介を兼ねて、はてなボックスを使い箱の中に手を入れて当てるクイズを行う ・ひまわりパイのライブキッチンを実施。一人ずつ皿に盛った茹でたかぼちゃを子どもたちがフォークで潰し、砂糖とバターを入れて更に混ぜていく。餃子の皮で包み皮の縁に少しずつ指で水を付けて貼り合わせ、形を整えてから周りにフォークの痕を付ける。
結果・参加者の反応や様子		クイズでは夏野菜の栽培をしていた事もあり、野菜の名前を知っている子が多く楽しんで当てることが出来た。夏の野菜には水分が多く、体を冷やす成分や暑さから体を守る栄養があることを伝えると、興味を持ってよく聞いていた。クラスで栽培をしていた身近なかぼちゃを使ったひまわりパイということで、ライブキッチンでは喜びながらも真剣に行なう子どもの姿が見られた。おやつに出るメニューを作るという期待感が大きかった一方で「うまくできるかな」と少し緊張する子もいた。かぼちゃの餡をフォークで潰してみると「柔らかいね」という声が聞かれた。嬉しそうに出来栄えを見せ合い、自分の作ったひまわりパイに親しみを感じている様子であった。仕上げたひまわりパイは給食室で揚げてもらい、保護者に向けて展示した。一つ一つに名前の旗が付けられていたので、迎えに来た保護者と一緒に眺めながら会話が弾んでいた。
評価・今後の課題		調理師が作って見せるだけのライブキッチンではなく、子どもたちが作るクッキングにしたことで、興味がより一層深まり真剣な姿が見られて良かったと思う。ひまわりパイの喫食量もいつもよりも多く、自分たちが作るという経験を通して興味や食欲につながったと思い、実際に体験することの大切さを改めて感じた。
備考		